

I. 平成 17 年事業報告

1. 総会・表彰式

(1) 第 58 回通常総会

平成 17 年 3 月 27 日 (日) 13 時 40 分から神奈川大学横浜キャンパス・セレストホールにて開催。次の事項について承認、議決した。

1) 平成 16 年度事業報告承認の件、2) 平成 16 年度収支決算および年度末貸借対照表ならびに財産目録承認の件、3) 平成 16 年度表彰者選定結果の報告。

代議員総数 360 名のうち、245 名 (内 44 名、委任状 201 名) が出席し、代議員の過半数である定足数を満たした。

(2) 臨時総会

平成 18 年 2 月 22 日 (水) 13 時 30 分から本会 7 階ホールにて開催。次の事項について承認、議決した。

1) 平成 18 年度事業計画案承認の件、2) 平成 18 年度収支予算案承認の件、3) 平成 18 年度役員承認の件、4) 名誉会員推薦者承認の件。

社員 360 名のうち、282 名 (内 42 名、委任状 240 名) が出席し、社員の過半数である定足数を満たした。

(3) 表彰式・名誉会員推薦式

平成 17 年 3 月 27 日 (日) の第 58 回通常総会に引き続いて行なった。

【表彰式】

1) 第 57 回 日本化学会賞

板谷 謹悟 今中 忠行 入江 正浩 吉良 満夫
平尾 公彦 福住 俊一

2) 第 22 回 学術賞

石原 達己 稲垣 伸二 大澤 雅俊 京谷 隆
楠見 武徳 柴山 充弘 杉山 弘 田中 秀樹
村上 正浩 山下 正廣 柳 日馨

3) 第 54 回 進歩賞

石谷 暖郎 伊丹健一郎 井上 将行 栄長 泰明
岡本 晃充 金谷 有剛 寺尾 潤 吉本惣一郎

4) 第 53 回 化学技術賞

- ①福岡 伸典 府川伊三郎 小宮 強介 松崎 一彦
②鈴木榮一郎 石川 弘紀 三原 康博 榛葉 信久
浅野 泰久
③和泉 好高 市橋 宏 嶋津 泰基 北村 勝
佐藤 洋
④中野 達也 平井 成尚 岩浜 隆裕 八浪 哲二
石井 康敬

5) 第 29 回 化学教育賞

黒河 伸二 中尾 安男

6) 第 22 回 化学教育有功賞

加茂 光一 柄山 正樹 佐々木和枝 佐藤 琢夫
谷川 貴信

7) 第 23 回 化学技術有功賞

城 始勇 堀米 利夫 真島 敏行

【名誉会員推薦式】

大木 道則 鈴木 章 瀬谷 博道 辻 二郎
藤嶋 昭

2. 法定理事変更および登記手続

平成 17 年度理事として

村井 眞二 (科学技術振興機構)

池田 富樹 (東工大資源研)

今成 真 (三菱化学(株))

玉尾 皓平 (理研)

宮浦 憲夫 (北大院工)

山本 嘉則 (東北大院理)

岩澤 伸治 (東工大院理工)

西村 淳 (群馬大工)

上村 大輔 (名大院理)

加納 航治 (同志社大工)

小松 満男 (阪大院工)

平尾 一之 (京大院工)

高垣 秀次 (大日本インキ化学工業(株))

鴻池 敏郎 (塩野義製薬(株))

太田 暉人 (日本化学会)

の 26 氏が就任し、その手続きは平成 17 年 4 月 26 日に完了した。

3. 平成 18 年度役員候補者

平成 18 年度役員候補者は所定の手続きを経て臨時総会で下記の通り承認された。

会長 藤嶋 昭 (神奈川科学技術アカデミー)

副会長 楠本 正一 (サントリー生有研) 池田 富樹 (東工大資源研)*

中江 清彦 (住友化学(株)) 今成 真 (三菱化学(株))*

渡辺 正 (東大生研) 山本 嘉則 (東北大院理)*

理事 大方 勝男 (広島大院理) 岩澤 伸治 (東工大院理工)*

香月 昂 (九大院理) 上村 大輔 (名大院理)*

菅原 義之 (早大理工) 加納 航治 (同志社大工)*

田島 慶三 (三井化学(株)) 鴻池 敏郎 (塩野義製薬(株))*

谷口 功 (熊本大工) 小松 満男 (阪大院工)*

橋本 和仁 (東大先端研) 高垣 秀次 (大日本インキ化学工業(株))*

原田 明 (阪大院理) 西川 恵子 (千葉大院自然科学)*

府川伊三郎 (旭化成(株)) 西村 淳 (群馬大工)*

山田 宗慶 (東北大院工) 平尾 一之 (京大院工)*

宮浦 憲夫 (北大院工)*

常務理事 太田 暉人 (日本化学会)

*:平成 17 年度に選任された留任役員である。

4. 平成 17 年度表彰者

平成 17 年度表彰者は、所定の手続きを経て、下記のとおり決定した。

第 58 回 日本化学会賞

上村 大輔 (名大院理)

「海洋天然物の生物有機化学的研究」

梅澤 喜夫 (東大院理)

「イオン・分子の可視化と検出のための新手法」

小林 速男 (分子研)

「磁性有機超伝導体および単一分子性金属の研究」

小松 紘一 (京大化研)

「炭素 π 共役系の極限的構造と物性に関する実験的研究」

巽 和行 (名大物質科研セ)

「遷移金属カルコゲニドの分子構築と生物無機化学への展開」

増原 宏 (阪大院工)

「レーザーナノ化学：方法論の開発と分子系ナノダイナミクスの解明」

第 23 回 学術賞

今堀 博 (京大院工)

「フラーレンを用いた人工光合成系の構築」

大塩 寛紀 (筑波大数理物質)

「基底高スピン多核金属錯体の合成と展開」

北森 武彦 (東大院工)

「熱レンズ顕微鏡の開発とマイクロ化学チップの展開」

笹井 宏明 (阪大産研)

「新規スピロ型不斉配位子 SPRIXs の開発と、二重活性化概念に基づく新しいエナンチオ選択的触媒に関する研究」

佐々木 誠 (東北大院生命科学)

「新規ポリエーテル骨格合成法の開発と天然物全合成への展開」

関 隆広 (名大院工)

「二次元系スマート光応答高分子システムの開発」

寺前 紀夫 (東北大院理)

「光機能性分子認識試薬の開発と規制反応場特異的分子認識」

浜地 格 (京大院工)

「蛋白質機能制御のための化学生物学的新手法の開発」

福村 裕史 (東北大院理)

「パルスレーザーによって誘起される凝縮系新現象の開拓」

松本 吉泰 (自然科学研究機構)

「表面光化学における超高速ダイナミクス」

元島 栖二 (岐阜大工)

「カーボンマイクロコイル (CMC) の合成と特性評価」

第 55 回 進歩賞

大栗 博毅 (北大院理)

「設計分子の迅速合成を基盤とする多環性天然物の生物有機化学研究」

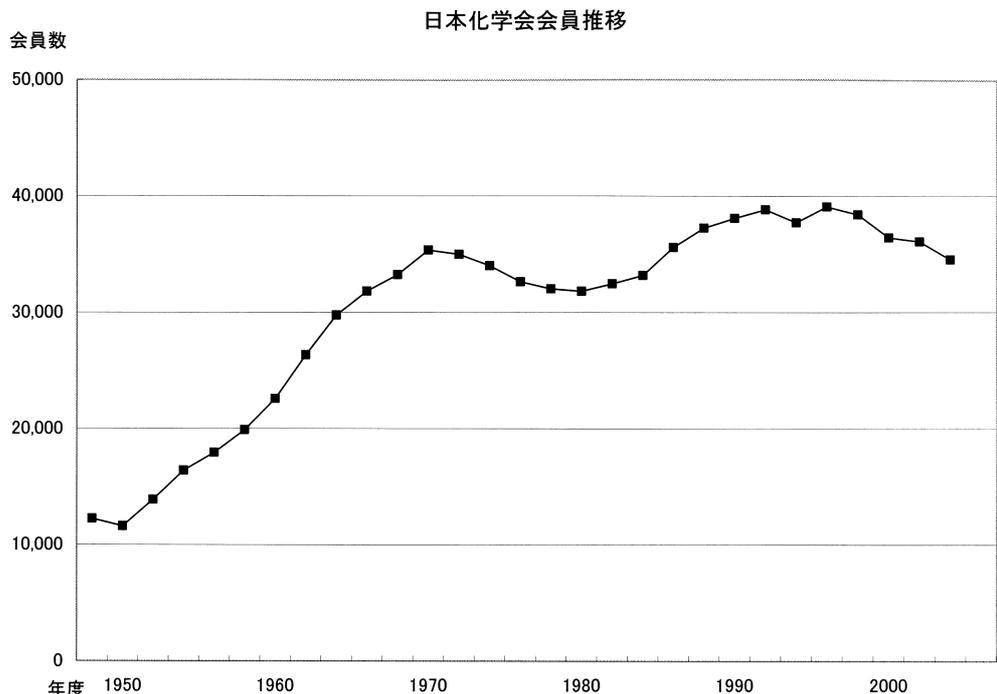
木口 学 (北大院理)
「金属表面上に作製したナノ構造に発現する表面・界面物性の解明」
北村 充 (九工大工)
「sp²混成原子上での置換反応に基づく有機合成手法の開発と高次構造生理活性天然物の合成」
庄司 満 (東理大工)
「合成経路を模倣した血管新生阻害活性を有する天然有機化合物の効率的全合成」
林 克郎 (東工大フロンティア)
「活性陰イオンを利用したナノポーラス結晶 12CaO・7Al₂O₃ の機能化に関する研究」
藤田 晃司 (京大院工)
「酸化物の原子配列と形態の不規則性を活用した光機能創出」
松尾 豊 (科学技術振興機構)
「多核金属フラレン錯体の合成と機能」
三井 正明 (慶應大理工)
「巨大な分子クラスターの生成法の開発とその電子構造の解明」

第54回 化学技術賞
常木 英昭、桐敷 賢、奥 智治、進藤 久和、森下 史朗 ((株)日本触媒)
「ジエタノールアミン製造の形状選択的触媒プロセスの開発と工業化」
第11回 技術進歩賞
雄野 邦久、中村 史夫、瀧井 有樹 (東レ(株))
「柱状構造を用いた超高感度 DNA チップの開発」
永田 浩一 (フロンティアカーボン(株))
「DBU との選択的錯体化を用いたフラレンの工業的分離方法の開発」
宇都宮 賢、川上 公德、押木 俊之
(三菱化学(株)、(株)三菱化学科学技術研究センター、岡山大学)
「ルテニウム錯体触媒を用いた 1,4-ブタンジオールの脱水素環化反応による γ -ブチロラク톤の製造技術の開発」

会員現況

会員種別	平成17年	平成17年度中								平成18年	年度内増減
	2月末 現在	入会内訳			退会内訳				変更	2月末 現在	
		新入会	復帰	入会計	退会	死亡	除籍	退会計	修正		
個人正会員	26,294	519	72	591	1,537	89	2,107	3,733	1,941	25,093	-1,201
学生会員	4,946	2,633	9	2,642	400	0	111	511	-1,961	5,116	170
教育会員	2,031	82	6	88	103	2	36	141	15	1,993	-38
名誉会員	69	1	0	1	0	1	0	1	5	74	5
法人正会員	603	14	0	14	38	0	1	39	-1	577	-26
公共会員	571	12	1	13	26	0	0	26	1	559	-12
賛助会員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	34,514	3,261	88	3,349	2,104	92	2,255	4,451	0	33,412	-1,102

年度	合計
1950	12,233
	11,585
	13,876
	16,388
	17,931
	19,901
1960	22,596
	26,354
	29,764
	31,806
	33,223
1970	35,329
	34,972
	33,999
	32,611
	32,018
1980	31,810
	32,456
	33,165
	35,572
	37,247
1990	38,080
	38,831
	37,722
	39,084
	38,419
2000	36,406
	36,062
	34,514



第30回 化学教育賞

曾我部國久（島根大教育）
「多年にわたる出前実験による化学好きの子どもの育成」
細矢 治夫（お茶大名誉）
「数理・論理に根ざした化学教育の改革への貢献」

第23回 化学教育有功賞

小西 弘子（関西創価中・高）
「理科クラブ活動を通しての化学教育への貢献」
齊藤 幸一（開成学園中・高）
「実験を基盤にした化学の普及活動に関わる貢献」
笹村 泰昭（苫小牧工業高専）
「化学教育用教材の開発と普及」
杉山 剛英（札幌旭丘高）
「化学教育のための新教材の開発・普及とその実践のための研究グループの育成」
妻木 貴雄（筑波大附属高）

第24回 化学技術有功賞

西山 雅祥（阪大工作センター）
「化学研究・教育の支援を通じた技術改良への貢献」

第1回 功労賞

豊田 二郎（阪大総合学術博物館）
「日本化学会ホームページと年会登録システムの構築における貢献」
野村祐次郎（東大名誉）
「投稿論文の有機化合物命名法校閲に対する多年の貢献」

5. 名誉会員候補者

名誉会員推戴候補者は、所定の手続きを経て臨時総会で下記の通り決定した。

茅 幸二 柴崎 正勝 御園生 誠 村井 眞二
Rolf Huisgen

6. 平成17年度理事会・委員会開催回数

通常総会	1回	研究交流部門	
臨時総会	1	研究交流部門会議	2
役員会等		学術研究活性化委員会	3
理事会	5	国際交流委員会	2
顧問会	1	第85春季年会（2005）実行委員会	1
相談役会	1	第86春季年会（2006）実行委員会	3
支部長・部会長	2	DB事業委員会	0
運営会議関係		男女共同参画推進委員会	5
運営会議	6	化学関係学協会連合協議会	1
将来構想委員会	4	学術情報部門	
広報委員会	0	学術情報部門会議	4
倫理委員会	4	化工誌編集委員会（幹事会6回含む）	8
論説委員会	4	欧文誌編集委員会（編集幹事会12回含む）	14
会務部門		速報誌編集委員会	3
会務部門会議	2	論文誌電子化委員会	4
会員委員会	5	産学交流部門	
財務委員会	3	産学交流委員会	2
職員人事委員会	2	環境・安全推進委員会	3
役員選考委員会	1	化学技術者教育委員会	1
学会賞選考委員会	2	化学教育協議会	
学術賞・進歩賞選考委員会	1	化教誌編集委員会	4
化学技術賞等選考委員会	1	役員会（幹事会3回含む）	4
化学教育賞等選考委員会	1		

7. 平成17年度理事会、運営会議、各部門の審議経過

(1) 理事会

会長と副会長の選考方式に続いて、理事に専門枠を設ける改定案を議論し、最終的に4人の枠を設けることを承認した。

懸案であった。ディビジョン制の具体的内容について討議した。最終的に21の分野設定と実施計画を承認した。WEBシステムを立ち上げ、本年秋季以降に活動を開始することで、昨年暮れの会費請求時から会員のディビジョンへの登録受付を開始した

社会や化学会に多大な貢献をした会員にフェローの称号を与えたいとの提案があり、総数を最大で会員数の2%程度とすることで承認した。資格制度についても、提案があったが、必ずしも理事の間で十分な理解が得られていないとのことで、継続審議となった。

欧文誌、速報誌関係では、1月から電子版へのアクセスを購読者に限定しはじめたが、8月から著者が一定の投稿料を支払うことで、その論文へのアクセス制限をはずす、いわゆるオープンアクセスにすることを承認した。科学技術振興機構が国費で創刊号をまでの電子化を実施することを決め、当会の欧文誌、速報誌、和文誌がすべてその対照に選ばれ、コピーライトへの対応などを行なった。

また、アジア誌刊行の提案がWiley-VCHからあり、ワーキンググループで検討した上、最終的にはWiley-VCH、および中国、韓国、インドの化学会と契約を締結した。今年の7月から刊行を予定している。

国際交流関係では、ドイツ年を記念して、ドイツ化学会と連携して、第85春季年会中に、ドイツの研究者10名、博士課程の学生10名を招待し、シンポジウム、講演会、懇親会を開催した。学生は、その後6週間、日本各地の研究機関に滞在し交流を深めた。日本からも8名の大学院生を各大学を通じて、9月のドイツの年会に参加させたあと、ドイツ各地で同様に6週間滞在させた。

前年のドイツ大会に続いて、台湾の国際化学オリンピックに代表4人を派遣したところ、銀1、銅3の成績を収めた。代表チームは帰国後文部科学大臣を訪問し労いの言葉を頂いた。化学教育協議会で化学オリンピックの日本招致の検討を進めていたが、正式に立候補することを承認し、2010年の日本開催が実質的に内定した。

これまで、組織上の位置付けがややあいまいであった化学教育協議会を部門と同格とすることとし、化学教育協会の議長を運営会議メンバーとし、理事会にもプザーバー参加してもらうこととした。

(2) 運営会議

運営会議は、本会の重要事項をタイムリーに審議する機関として位置づけられており、役員選考方法の改訂、ディビジョンのあり方、フェロー制度、資格制度などの具体的な内容を討議し、理事会に付託した。

藤嶋次期会長が機関誌「化学と工業」の刷新を強く呼びかけ、紙面のカラー化、プロのライター起用などの改革が今年の1月号から実施された。

昨年会員の「行動指針」を策定し、倫理委員会を設置したのに続き、具体的な審査を行なう手順を制定した。既に、1件予備調査に入った案件が生じている。

1. 将来構想委員会

今年度の本委員会は、4回の委員会を開催し、平成16年度運営会議からの申送事項のほか、藤嶋委員長からの検討提案のあった下記事項について集中的な議論を行った。

(1) 政策提言機能の発揮とその具体的な推進方法の検討

平成18年度に新設予定の『日本化学会ディビジョン』の最重要任務は、本会として各分野の研究の現状（研究最前線・課題）、将来予測、今後推

進すべき研究課題などを『化学会レポート』（仮称）にまとめ、国の科学技術政策に提言することであり、専門家集団として「科学技術指針」の提示に結びつく政策提言をどのような組織体制で行うかについて討議した。

わが国の化学に関する集団は大変に大きく、長期的にみても化学分野からの政策提言の発信は極めて重要であり、総合科学技術会議に高い視点での政策提言がダイレクトに具申できると効果的である。政策提言機能の発揮とその具体的な推進の効果的なやり方について、経団連やナノテク材料に関する総合科学技術会議のヒアリングの例を参考に検討を行った。本課題については次年度への継続審議課題とすることにした。

(2) 理科離れへの具体的な対策検討

①理科教室の充実と理科教員免許制度の見直し

小学科における理科教育課程実施状況に関する文科省等の調査結果を基に専門家より説明を受け討議した。小学校教員免許制度の問題点としては、教科専門科目の履修単位が少なくなり、観察実験の単位取得が必要ないため試薬が作れないなどの基礎的な技能が不足。6年制や大学院での免許状の取得、初任者研修制度の充実などインターン制度等を考える必要がある。また、現状では教員にゆとりがない。教員の理科離れを解消するためにも体験活動、個人研修の機会を増やすこと、各地地域教育センターでの研修、研究に対応する施設・人員・予算の充実、実験教材費を拡充することが必要であることがわかった。本件については次年度への継続審議課題とすることにした。

②化学普及書“ファール昆虫記”（化学版）の企画・発行

下記諸氏により2回の会議をもち、これまでにない新しいタイプのものを本会の総力を挙げ、2年以内に刊行する目標を掲げ企画立案に着手した。

○委員長：井上晴夫（首都大東京）

○委員：藤嶋 昭（神奈川科学技術アカデミー）、市村禎二郎（東工大理工）、桐村光太郎（早大理工）、中村 聡（東大院生命科学）、斎藤幸一（開成学園）、吉兼正能（ダイセル化学工業）、支部教育関係者など。

(3) アジア戦略の検討－日本・中国・インド等を核とする学術交流計画

これからはアジア中心の視点が重要であり、学術面でも特に発展が予想される中国化学会およびインド化学会とコミュニケーションを図り相互に情報交換を行う。具体的には、双方の活動状況を定期的に情報交換し、化学と工業誌にその情報を掲載し紹介することにした。

(4) 大学院博士課程学生に対する経済的支援およびポストドク研究者への支援
標記の問題をテーマに、第86春季年会会期中に、将来構想委員会・産学交流委員会の共同企画により、シリーズ『研究所長フォーラム』（第5回）として開催することにした。ポストドクの現状と課題、化学に関わる大学、産業界、学会がこの問題で何ができるかを議論し、何らかの提言をまとめることとした。

(5) 教育研究基盤整備の国際水準パラダイム構築に関する研究会の要望書
平成13年～16年、日本学術会議化学研究連絡委員会と日本化学会将来構想委員会は分子科学研究所の支援・協力を得て標記研究会を4回開催、国際水準パラダイム構築に向けてのわが国の教育研究基盤整備に関して、現状の分析と集中討議を行って報告書にまとめた。その項目は下記のとおり。

①国際水準の教育研究環境安全インフラ整備、②中規模先端施設整備への継続的な投資、③大型施設の統合および研究支援者（テクニシャン）の養成と配置、④少子化対策をにらんだ雇用の国際化および女性研究者の活躍の場の拡大、⑤若手研究者の早期独立と研究資金配分の公平性、⑥博士課程（DC）学生ならびにポストドク（博士研究員）への支援とその受け皿作り、⑦21世紀COEプログラム後の国際的COE拠点形成施策、

これらの項目のいくつかは、すでに科学技術基本計画に盛り込まれたが、具体的に始動するかが重要である。本研究会でまとめられた提言は極めて重要な問題であることから、今後関係機関に配布できるよう提言内容をまとめることとした。

2. 広報委員会

本年度の広報活動は、下記事業を中心に行った。

(1) 第86春季年会（2006）ハイライト講演の広報

広報委員会内に下記諸氏によるワーキンググループを組織し、年会プログラム委員会から選抜された115件の中から、一般研究発表15件のハイライト講演を選抜し、発表予定者に説明用資料の作成を依頼、ハイライト集を作成、平成18年3月16日（木）、本会会議室で報道関係者の出席を得て記者会見を行った。

主査：池田 富樹（東工大資源研）、委員：石井 昭彦（埼玉大理）、岩澤 伸治（東大院理工）、鈴木 啓介（東大院理工）、角田 欣一（群馬大院工）、堂免 一成（東大院工）、西川 恵子（千葉大院理）、西原 寛（東大院理）、船木 克典（ダイセル化学工業）、山田 徹（慶大理工）、山元 公寿

（慶大理工）、吉兼 正能（ダイセル化学工業）、渡辺 正（東大正研）

(2) 化学イノベーションシンポジウム：明日を拓く化学のとびら（第3回）

平成16年1月より開始された標記シンポジウムの第3回目は関連学協会等の共催のもと、科研費補助金をうけ、400名を超える参加者を得て盛会裏に開催した。

○日時：平成17年7月2日（土）10時30分～16時50分

○会場：大阪科学技術センター大ホール（大阪市西区靉本町1-8-4）

○講演

1. ポルフィリノイド化学の最近の展開（京大院理）大須賀篤弘
2. フラーレンを内包したカーボンナノチューブ：基礎から電子デバイスへ（名大院理）篠原久典
3. 有機-無機ナノハイブリッド材料の創製（京大院工）中條善樹
4. 分子が集まってできる構造と機能（阪大院理）原田 明
5. 酸化チタン光触媒による環境浄化：その現状と将来展望（阪府大院工）安保重一
6. 太陽光エネルギーの有効利用法：いくつかの化学的アプローチ（阪大太陽エネルギー化学研セ）松村道雄
7. ケミカルバイオロジーの勧め（京大院工）今中忠行
8. ナノテクノロジーと生命科学（阪大院生命科学）柳田敏雄

なお、第4回シンポジウムは平成18年11月12日（日）、九州大学医学部百年記念館で開催を予定し現在準備中である。

(3) HP管理委員会

本委員会は本年度打合せ会を1回開催し、①年会プログラムの携帯電話による検索、②年会予稿集WEB版、CD-ROM版の製作協力、を実行したほか、③『日本化学会ディビジョン』への対応、および④1年後、3年後、5年後のHPをどうするか、など委員会・事務局体制を含め検討を行った。

3. 倫理委員会〔委員長 井上祥平（東京理科大学）〕

平成17年度3月より発足した標記委員会は今年度4回の委員会を開催し、下記事項の検討を行ったほか、科学技術に係わる関係10学協会を構成する『技術者倫理協議会』に加盟し、さらに第85春季年会（2005）で科学者・技術者の倫理に関するシンポジウムを開催した。

(1) 『日本化学会会員行動規範』及び『行動の指針』の会員への周知とそれらの継続的な見直し

今回制定された行動の指針には『知的財産』の問題が言及されていないので、委員会としてこの問題の企業の専門家を招き勉強会を開催した。

(2) 大学学生及び大学院生を対象とする倫理教育に関するカリキュラムの立案

わが国の大学では主に技術者倫理を中心に教育が行われているが、本会としては技術者だけではなく、科学と技術の両方を含む倫理教育のカリキュラムを指針として作成することをめざすこととし、当面、JABEE認定のわが国の大学院生向けの倫理教育のカリキュラム例、海外の大学の倫理教育のカリキュラム例などの情報を調査・検討した。

(3) 会員の不正行為に関する調査及び審理に関する規則の作成・検討

イギリス王立化学会（RSC）およびアメリカ研究公正局（ORI）などの処分規定のほか、近年、わが国の企業でもコンプライアンスやCSR（Corporate Social Responsibility）を重視する観点から、この種の規定を設けているので、関連の資料を収集・調査し、会員の不正行為の調査・審理に関する規則案を審議・作成し最終案を平成18年1月理事会に答申、承認された。

(4) シンポジウム『科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える』

関連15学協会の共催、日本学術会議の後援で開催した。出席者約50名。

○日時：平成17年3月28日（月）13:00～16:50

○会場：神奈川大学横浜キャンパス

○プログラム：

基調講演『歴史的にみた科学者・技術者の倫理』（恵泉女学園大）古谷 圭一

話題提供（日本機械学会）斎藤 忍、（土木学会）池田 駿介、（情報処理学会）米田 英一、（日本技術士会）高城 重厚

総合討論 基調講演者および話題提供者

4. 論説委員会

一般社会の化学に関する問題について、専門家集団として日本化学会が積極的に発言するべきであるとの観点から論説委員会が設置されている。

17年度は、論説委員13名とテーマによってその都度ご委嘱するゲスト論説委員が、化学が関連する時事テーマを随時とりあげ、それに対する化学者としての良識的な見解を毎号の「化学と工業」誌に順次執筆して「論

説」を掲載し、また、日本化学会ホームページにも掲載して会員のみでなく社会に向けて発信を行った。

(1) 論説の発表に際しての検討

本会における「論説」としての性格または位置を明確にするために検討を行い、論説の掲載に際しては、「ここに載せた論説は、日本化学会の論説委員の執筆によるもので、文責は、基本的には執筆者にあります。当会では、この内容が会を代表する重要な意見の一つとして認め掲載するものです。」と記載することにした。また、掲載欄を「論説室」から「論説」に改めた。

(2) 論説テーマ

2005年2月号から記事の掲載を開始し、17年度は以下のテーマにて掲載を行った。

論説 執筆担当(敬称略)・テーマ一覧 (刊行予定を含む)

化学と工業 Vol. 58 (2005年)

2月号	北澤	日本のサイエンス・コミュニケーション事情
3月号	細矢	学会の存在意義と使命
4月号	安井	京都議定書の先をみた産業戦略の策定を
5月号	中村	改革が進む科学研究費補助金制度
6月号	渡辺	もったいない初中等教育
7月号	澤本	「産学連携」と大学の使命
8月号	山辺	学会の活性化―産業界への期待―
9月号	相澤	大学院教育の変革に向けて―創造的人材の育成―
10月号	黒田	今求められる科学と社会の架け橋―サイエンスイン タープリター何を伝えるか、どう伝えるか
11月号	御園生	化学者コミュニティの使命と化学系学協会の連携
12月号	有本(ゲスト)	社会の変容と科学技術体制の改革

Vol. 59 (2006年)

1月号	北澤	ポストク問題を解決するために―制度の初期ゆがみ の是正―
2月号	中村	アジア化学雑誌の発刊について
3月号	山野井	産業界から大学(院)教育への要望と期待
4月号	中西(ゲスト)	工業生産ナノ材料のリスク問題

(3) 今後の課題―論説に対する会員からの意見の掲載

18年度から、掲載した論説に対する読者からの意見、感想を積極的に募集し、その中から主要なものを「化学と工業」に掲載することにした。これにより問題に対する会員および一般社会の理解を求め、適切な共通認識に至ることをめざす。

(3) 会務部門

本年度の会務部門会議は2回開催し、下記事項について審議した。傘下の「会員委員会」「職員人事委員会」「役員選考委員会」「各賞選考委員会」の本年度の活動状況を含め以下にまとめた。

1. 会務部門会議

平成17年度の会務部門は、主に、①平成18～19年度会長選挙投票に係わる事項、②役員選考方法とくに理事選出方法、③名誉会員規程改定案、④功労賞制定に伴う関連規程・内規案、などについて議論を行い、運営会議・理事会への答申案をまとめた。

①平成18～19年度会長選挙投票に係わる事項の検討

現行の硬直した役員選考方法に変わり、本会が化学分野のリーディングソサエティーとして機能するための新しい選考制度として、会員による会長の直接選挙、会長任期2年・次期会長制度の廃止が平成16年度理事会で決定された。これを受け、平成17年3月、個人正会員、名誉会員、入会後2年以上を経過した学生会員、および教育会員に平成18～19年度会長候補者の選挙投票を依頼した(発送総数は28,477、投票数は7,984(投票率約28%)。)

開票作業は平成17年3月17日、本会会議室において井上会務部門長および堂免理事立ち会いのもとに行い、今回の選挙投票が新たに制定された『会長候補者選出のための会員直接選挙実施要項』に則し、遺漏なく行われたことを確認した。開票の結果、藤嶋 昭 氏(神奈川科学技術アカデミー理事長)が平成18～19年度会長候補者として最高得票を獲得され、同月開催の理事会に開票結果を報告し承認され、正式な会長候補者となった。正式決定は平成18年2月開催予定の臨時総会の承認を得て会長として確定することになる。よって、平成17年度の理事会には規程に基づきオブザーバーの資格で出席頂いた。

なお、本件は報道関係者の関心も極めて高いことから、リリース原稿を作成し報道関係者に配信するとともに『化学と工業』5号およびホームページで結果を報告した。

②役員選考方法：理事選出方法の検討

前年度の会務部門の申送事項である理事選出方法として、各支部から各1名、女性枠1名のほか、新たに関東支部枠から2名、近畿支部枠から1名の定数をそれぞれ削減し、また理事定数を1名増員して、新たに4名の専門軸の枠を設けることについて検討した。本会は化学の広範な分野を包含しており、地域だけではなく、専門軸も考慮して理事を選出することは好ましいとの結論に到達し、平成18年度理事候補者選出からの適用を理事会に答申した。候補者の推薦はあたっては、『ディビジョン』制と連動した方が良いが、ディビジョン制がまだスタートしていない現状では、当面は理事会で「専門分野枠」以外から選出される理事の専門分野を考慮して候補者を推薦してもらい、役員選考委員会で選考するという方向で検討することとした。改正案は理事会で基本方針の承認を得て、支部長・部会長会で説明を行い、特に理事定数が削減される関東支部および近畿支部の意向を確認しながら検討を進めた。

以上の結果、最終的に常務理事を含む理事定員を1名増員し20名とし、新たに専門分野枠から4名を選出すること、および理事20名のうち産業界からは4名以上選出することが好ましいとの条文を関連規定に明記することにし、これに沿って役員等選挙規程、役員等選挙規程内規の条文を改正することにした。これら規定の改定案を審議し、平成17年7月理事会に諮り承認され、平成18年度役員候補者選出より実行された。

③外国人名誉会員の公募および名誉会員規程改定案の審議

運営会議の審議結果を受け、外国人名誉会員を公募するとともに、名誉会員規程の改定案を作成・審議し、平成17年7月理事会に諮り承認された。

④功労賞新設および関連規程案の審議

運営会議の審議結果を受け、平成17年度より「功労賞」を新設することを理事会に提案するため、事務局作成の表彰規程の改定案ならびに功労賞選考内規案を審議し、平成17年7月理事会に諮り承認された。

2. 会員委員会

本委員会は、会員からの意見をまとめて分析し、提言することも含めて、ひろく会員増強について検討を行うことを目的としている。今年度は、①学生会員から正会員への移行の際の退会を食い止める、②学生会員の増強を幅広く行う、③フェロー制度の検討等を主たる議題として以下の検討を行った。

【個人会員増強策】

1. 会員の勧誘によって学生会員が正会員に登録した場合、または新たに正会員が加入した場合は、申請により1件3,000円ずつ勧誘いただいた会員の所属する(または指定する)支部に還付する支部還付金制度を継続中。平成18年2月まで実施。

【学生会員増強】

1. 化学系研究室に所属する学生に占める化学会会員の割合につき、現役の役員の研究室を調査。調査後、非会員のいる研究室宛に「入会案内」を送り入会を勧誘。

2. 卒業を祝うとともに学生会員から正会員となって会員を継続することを勧める文書を2006年3月に卒業する学生会員に対して、記念品を同封して送付。

【職域会員代表者対応】

1. 年会時に職域会員代表者会議を開催、意見交換を行った。また、職域会員代表と企業所属会員を対象にして、レギュラトリーサイエンスをテーマにした年会特別講演会開催。

2. 次期(任期：平成18年3月～平成21年2月)職域会員代表者の委嘱を行った。

【法人会員】

法人会員の増強策として、支部の勧誘により新入会した法人会員の会費は、半額を当年度とその翌年度支部に還付することを引き続き実施。この制度は今年度で終了。

【日本化学会フェロー制度の検討】

運営会議・理事会より付託された「日本化学会フェロー会員制度」の規定案および選考委員会内規案について検討を行い、最終案を理事会に提出。

3. 財務委員会

今年度は環太平洋化学国際会議が12月に開催され、予算は10億円を越す規模となった。18年度予算は会員の減少による会費収入、論文会費収入の減収と化学と工業誌のカラー化、新規事業のディビジョンへの投資が見込まれているが、春季年会、広告収入での増収、また発送方法の変更によるコストダウンなどにより収支均衡の予算となった。

4. 職員人事委員会

①職員の人事異動と昇給者(特別昇給者を含む)の決定、②事務局職力の増強策とくに企業からの出向者受入れと面談、③職員の再雇用制度に関わる就業規則および関連規則の改定、④常務理事・事務局長の職務分担、⑤職員人事委員会の構成、⑥平成18年4月からの就業規則・給与規則改定案、な

どについて審議し、前記③について職員・嘱託事務員等への説明会を開催した。

5. 役員選考委員会

今年度の役員選考委員会は1回開催し、平成18年度の役員を選考した。

6. 各賞選考委員会

- ①学会賞選考委員会：委員会を2回開催し、平成17年度学会賞受賞者6件を選考した。
- ②学術賞・進歩賞選考委員会：委員会を1回開催し、平成17年度学術賞受賞者11件、進歩賞受賞者8件を選考した。
- ③化学技術賞等選考委員会：委員会を1回開催し、平成17年度化学技術賞受賞者1件、技術進歩賞3件、化学技術有功賞1件を選考した。
- ④化学教育賞等選考委員会：委員会を1回開催し、平成17年度化学教育賞受賞者2件、化学教育有功賞5件を選考した。

(4) 研究交流部門

今年度の研究交流部門会議は2回開催し、主に『日本化学会ディビジョン』制度について集中的な審議を行った。傘下の各委員会の今年度の活動状況と合わせ概略を記した。

1. 『日本化学会ディビジョン』制度について

将来構想委員会の付託を受け、平成17年度の研究交流部門に検討を申し送られた『日本化学会ディビジョン』の目的、機能、当面の活動、登録専門分野・キーワード、代表責任者、および登録にあたっての注意事項とディビジョン運営の取決めをまとめた「実施計画案」、さらには本制度のwebシステム、化学と工業ならびに本会HPに掲載するディビジョン制度への協力依頼の記事案などについて審議した。

これらは「役員・支部長・部会長・議長懇談会」等を通じ意見を徴しながら最終案をまとめ、運営会議・理事会に報告・説明し、最終的には平成17年10月理事会で承認された。基本的な骨子は下記のとおり。

- (1) ディビジョンは、各分野の現状（研究最前線・課題）と将来予測、今後推進すべき課題等を『化学会レポート』としてまとめ、国の科学技術政策への提言を行う。
- (2) ディビジョンは、各分野におけるe-mailを利用した情報発信・交流、春季年会プログラム編成および企画提案、役員（理事）・各賞受賞候

補者の推薦なども行う。

- (3) 制度の本格実施は平成18年9月を目途とする。平成17年10月下旬の会費請求時に個人会員全員に3分野以内の専門分野登録をしていただく。当面はメーリングリストを整備し、各分野の各種セミナー、シンポジウム案内、研究費公募、求人案内等をメール配信する。
- (4) 会員が登録する専門分野は21分野を予定し、分野・キーワードは5年ごとに見直しを行う。
- (5) 各ディビジョンより代表責任者1名を選出する。候補者は運営会議で人選し、理事会で承認を得る。
- (6) 本制度導入・運営のためのwebシステムの経費は次年度予算に計上する。

個人会員への専門分野登録の依頼は28,564通、2月10日現在の登録者は11,364名であり、引き続き登録を会員諸氏に依頼しており、来る平成18年2月理事会でディビジョン登録の進捗状況、代表責任者案、今後の推進体制等などについて、webシステムのデモ紹介を行って承認を得た。なお、来る3月の第86春季年会においてディビジョン代表責任者会議を開催し、ディビジョンの目的、活動等を説明し、協力を要請することになっている。

2. 研究発表事業

(1) 春季年会実行委員会

①第85春季年会（2005）[実行委員長：井上 晴夫（首都大学東京）]

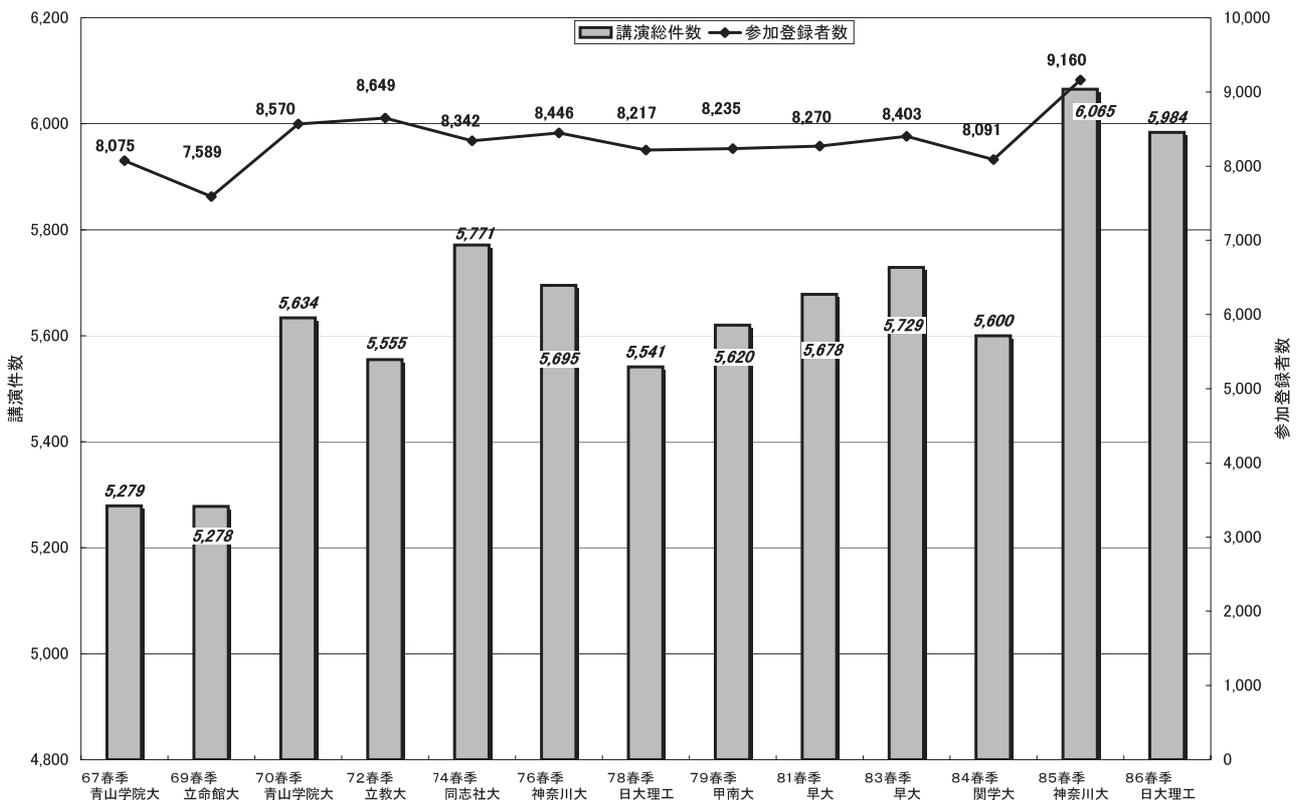
平成17年3月26日（土）～29日（火）、神奈川大学横浜キャンパスで開催。一般研究発表4,225件、ポスター発表1,316件、依頼講演165件、特別講演198件、受賞講演・特別企画講演167件など総講演件数6,071件。参加登録者9,150名。

本年会では、これまでの発表形式とは異なる新機軸として、化学の応用、実用化、事業化を中心とする『Advanced Technology Program』（ATP）を新設し、「デジタル社会を支える材料化学」を主題に7つのセッションが企画され、約400件の研究発表が行われた。ATPの新設により講演件数はこれまでの最高となった。また、本年会より講演予稿集はCD-ROM化され、これにより全プログラム、講演題名、発表者、キーワードなどの検索が可能となった。

②第86春季年会（2006）[実行委員長：池田 富樹（東工大資源研）]

平成18年3月27日（月）～30日（木）、日本大学理工学部船橋キャンパスで開催予定。一般研究発表4,230件、ポスター発表1,377件、依頼講

春季年会講演件数／参加登録者数



演 169 件、特別講演 77 件、受賞講演・特別企画講演 131 件など総講演件数 5,984 件。参加登録者未定。

本年会においても、前回同様『Advanced Technology Program』(ATP)を企画し、「デジタル社会を支える材料化学」を主題に 6 つのセッションが企画され、394 件の研究発表が行われる予定である。

③春季年会「ポスドク・助手」を対象とする『優秀講演賞』の新設

若手研究者をエンカレッジするために標記賞を新設することについて検討の結果、第 86 春季年会から実行することを平成 17 年 5 月理事会に提案、承認された。

名称:「優秀講演賞」、対象:35 歳以下(受賞年の 4 月 1 日現在)

審査対象:B 講演で発表する対象者のうち希望者のみ。

授与件数:審査対象件数の 20%以内。

(2) 部会・研究会

①部会:コロイドおよび界面化学、情報化学、生体機能関連化学、バイオテクノロジー、有機結晶の 5 部会において、例年どおり講習会、シンポジウム、ニュースレター、電子ジャーナル(情報化学部会)の発行など順調に事業を推進している。

②研究会:本年度までに非線型反応と協同現象、フラーレン・ナノチューブ、基礎錯体工学、酸性雨、量子有機化学、ソフト溶液プロセス、高精度分子設計、理論化学、液晶化学、生命化学、ヨウ素利用、化学電池材料、グリーンケミストリー、メスbauer分光、糖鎖化学の 15 研究会が設置されており、それぞれの研究会でシンポジウムの開催やニュースレターの発行などの活動が行われている。また、平成 16 年度新設の申請があった『分子情報ダイナミック研究会』(申請代表者:福住 俊一(阪大院工))の設置が承認され平成 17 年度から活動を開始した。

3. 研究交流支援事業

(1) 学術研究活性化委員会〔委員長:岩澤 康裕氏(東大院理)〕

本委員会は本年度会議を 3 回開催。新領域研究グループ制度について検討し、平成 17 年 10 月理事会にて承認された。また、複数の化学関連領域にインパクトがあり、新領域への展開を目的とする『第二次先端ウォッチング調査』の提案書、春季年会活性化とくに若手研究者による国際シンポジウムの企画などについて討議した。また、前年度に引き続き企業研究者を対象とする「実力養成化学スクール」の企画について産学交流委員会技術者育成分科会と共同で検討した。

(2) 国際交流委員会〔委員長:松本 和子氏(早大理工)〕

平成 17 年 8 月、北京とソウルで IUPAC、FACS 総会が相継いで開催され、松本 和子委員長の IUPAC 副会長当選に伴い、委員会は今年度 2 回開催した。また、次期委員長には、山本 嘉則氏(東北大院理)を本委員会として選出し、運営会議に諮ることとした。

①IUPAC 関係 [IUPAC 賛助会員主査:石谷 炯(神奈川科学技術アカデミー)]

平成 17 年 8 月、北京で行われた IUPAC 総会において、松本 和子委員長が役員(2006-2007 副会長、2008-2009 会長)に選出された。これを受けて本会としての支援体制を検討するため、19 期化研連委員長、岩村 秀氏を招き、財政的支援、英語(ネイティブ)のサポート体制、今後の運営について相談した。2007 年 4 月には Bureau Meeting の日本開催が提案されている。

②アジア化学会連合 (FACS: Federation of Asian Chemical Societies, CSJ 代表 松本 和子氏)

平成 17 年 8 月、FACS 総会がソウルで開催され、主催国がベトナムから韓国へ委譲された。新ホスト国の韓国より、本会に FACS EXCO (役員会)開催の打診があり、理事会でこれを承認した。これを受けて、本委員会内に伊藤真人委員(創価大)を中心にワーキンググループを発足させ、平成 18 年 3 月 28 日～30 日、日大理工船橋キャンパスで開催される第 86 春季年会会期中の 3 月 29 日に、EXCO 委員会を開催するとともに、シンポジウムを企画、またアジア留学生を対象とした懇親会を開催する予定である。

③2005 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2005: International Chemical Congress of Pacific Basin Societies)《日・米・加・豪・ニュージーランド・韓》

国際組織委員長 村井 眞二 (JST)、国内実行委員長 岩澤 康裕 (東大院理)

平成 17 年 6 月、シアトルで国際組織委員会が、また同年 12 月 15 日～20 日、ハワイ・ホノルルで標記本会議が開催された。約 11,500 件におよぶ講演発表(内日本約 5,700 件)、世界 70 カ国、約 11,150 名の参加登録(内日本約 5,100 名)があり、これまでの最高記録となった。開会式・基調講演(飯島 澄男氏(名城大))、レセプション、学生ポスター賞(選考/表彰)、日本化学会招宴パーティーや展示会等各イベントなど盛会裏に終了した。またこの機会に合わせて BCSJ/Chem. Lett. 共同編集委員会、Asian Journal のキックオフミーティングなど各種委員会や会合、懇談会が多数開催された。2006 年 6 月に最終組織委員会が開催

の予定。

④ナカニシシンポジウム (Nakanishi Symposium) - 運営委員長 山村庄亮(慶応大名誉)、シンポジウム実行委員長/選考委員長 橘 和夫(東大院理)

運営委員会 1 回、選考委員会 1 回を開催。2005 年受賞者は米国側で選考が行われ、Pennsylvania State Univ. の Prof. Steven J. Benkovic が選出され、米国化学会春季年会(3 月 13～17 日、サンディエゴ)で表彰された。運営委員会では今後の基金の運営等について討議された。また、2006 年度受賞者は本会で選考の結果、安元 健氏 (JST 沖縄県地域結集型共同研究事業)が選出された。来る 3 月の第 86 春季年会でナカニシシンポジウムを企画し、授賞式と共に受賞講演が行われ予定。

⑤南方-アボガドロレクチャー (Minakata-Avogadro Lectureship)

イタリア化学会に対し、本レクチャーシップの終了を申し入れ、既に承諾が得られているが、本年 9 月にフローレンスで行われる『アボガドロ生誕 150 周年』を記念する国際会議に野依良治元会長の出席要請があり、これを了承した。

⑥主催国際会議:本会主催の国際会議として下記が予定されている。

※第 21 回 IUPAC 光化学国際シンポジウム

2006 年 4 月 2 日～7 日、京都テレサ、組織委員長 入江 正浩

※第 25 回国際天然物化学会議(学術会議共同主催)

2006 年 7 月 23 日～28 日、京都国際会館、組織委員長 上村 大輔

※第 12 回新芳香族化学国際会議(学術会議共同主催)

2007 年 7 月 22 日～27 日、淡路夢舞台国際会議場、組織委員長 戸部 義人

※第 14 回有機合成指向有機金属化学国際会議(学術会議共同主催)

2007 年 8 月 2 日～6 日、なら 100 年会館、組織委員長 大罵 幸一郎

⑦『日本におけるドイツ年 2005/2006』(委員長 松本 和子氏(早大理工))

平成 17 年 3 月の第 85 春季年会会期中に各種イベントを企画立案。ドイツ化学会との連携のもと次の企画を実施した。①年会へのドイツ研究者の招待/講演、②展示会でのドイツ特別コーナーの設置、③交換留学生の受入れおよび年会での発表、④ドイツ留学生による交流パーティーの開催他。

(3) DB 事業委員会〔委員長:井上 晴夫氏(首都大学東京)〕

インターネットの飛躍的な普及により、本会会員のもつ膨大な学術情報やその他情報を整理・活用することが可能となった。委員会では平成 12 年より本会 HP で、下記の情報提供サービス事業を開始した。

①本会法人正会員企業 HP へのリンク:学生の就職活動支援を主目的に本会 HP と本会法人正会員の HP とをリンクさせた。

②研究者 DB:研究者の人的な情報資源を最大限に活用し、わが国の化学研究のレベルを飛躍的に高めることを目的に、大学等に所属する正会員および公的機関に所属する正会員約 10,000 名を対象に調査。本会に蓄積された研究者個々の会員情報および過去の春・秋季年会〔第 72 春季年会(1996)～第 85 春季年会(2005)〕における研究発表内容、研究業績、専門分野等に関する最新情報が DB 化されている。対象会員すべてにパスワードを知らせ、本会 HP 上の情報を修正・追加しアップロードする方法を採用した。許諾された研究者の情報は平成 12 年から公開を開始した。本 DB の利用にあたり、本会法人正会員各企業にはパスワードを購入して頂いている。

③ラボ用製品ガイド:平成 12 年に、化学研究に不可欠な実験装置、計測機器、試薬等に関する企業の最新製品情報を DB 化し、キーワード検索などの機能を備え本会 HP で紹介する事業を開始したが、類似の優れた DB が他にあるため、委託会社は事業から全面撤退した。このため委員会では、新たに(株)科学技術社と契約を締結し、平成 17 年 3 月より新たな方法による情報提供サービス事業を本会 HP で行っている。

4. 対外的事業に関する事項

(1) 化学関係学協会連合協議会(化学会系 31 学協会組織)

①化学関係学協会連合協議会内に「化学技術者教育部会」(委員長:西郷和彦氏(東大院新領域))を設置し、化学分野の認定制度については化学学協連が共同して対応している。本年度は日本化学会が幹事を担当し、本格審査・中間審査・環境分野の試行を実施した。そのほか受審予定校からの相談・助言を行った。

②大学院認定制度の検討が始まり、化学分野でも 2 校のシミュレーションを実施した。

③次年度も引き続き大学院における教育理念や意識などの必要性、改善に向けて提案を行っていく予定である。

(2) 平成 18 年度科研費審査委員候補者の情報提供

日本学術振興会の要請に基づき各分科細目の平成 18 年度審査委員候補者について関連学協会が調整し、化学系として合同して情報提供した。

5. 男女共同参画推進委員会

年會会期中に第5回シンポジウム、豊饒なる男女共同参画“しなやかに・たくましく・美しく～女性ならではの感性を生かしたプロフェッショナルたち～”を開催した。

また、男女共同参画学協会連絡会、第3期の幹事学会を日本原子力学会と務め、第三回シンポジウム「21世紀の産業を拓く男女共同参画社会」を10月に開催した。

(5) 学術情報部門

学術情報部門が掌理する委員会等は、化工誌、欧文誌、速報誌、論文誌電子化、および刊行物である。平成18年度以降、新たに設置されるアジア誌刊行委員会も管轄する。機関誌は、藤嶋次期会長、植村編集委員長の指導のもと、紙面の大幅な刷新を実施した。論文誌は、昨年1月からの電子版へのアクセス制限の影響を最小限に食い止めるための拡販活動に注力した。

1) 機関誌関係

本年度は、「精密合成-高次構造と機能」「使える統計学」「次世代測定機器」関連のシリーズを企画・連載した。特集として、「支部発！話題欄」を2回、「新しい透明材料」「規制空間における反応制御」「食料と化学を考える」「再生医療」「エレクトロニクス-材料とデバイス作製技術の進歩」「分子界面-界面化学のトレンド」「航空宇宙研究と化学」「地方名産品の化学」「センサー」「化学のフロンティア2006」等を企画した。2006年1月号からの新設欄OVERVIEWでは「わが家に燃料電池車の届く日」「アスベストの規制と代替化」を取り上げサイエンスライターを起用した。また、「会員から」欄や「CCIサロン」等の気軽に読める記事の充実にも努めた。発行回数 12回 総頁数 1,978頁 総発行部数 366,800部

2) 論文誌関係

両論文誌ともReference表記法は、速報編集委員会からの提案をベースに1月から切り替え、両論文誌統一した。また、科研費の支援を活用して、アメリカ化学学会年会、北京のIUPAC総会、ハワイの環太平洋化学会議などに出席したほか、米国の丸善インターナショナルを通じた販売活動、雑誌「Nature」への広告掲載など、積極的な販促活動を展開した。

	欧文誌	速報誌
発行回数	12回	12回
論文掲載数	326件	801件
総頁数	2,794頁	2,061頁
総発行部数	36,000部	40,450部

3) 刊行物関係

①「化学英語論文のスタイルガイド」の刊行を企画した。日本化学会の論文誌の投稿規程や、実際に校閲にあたってきた顧問の先生方のノーハウをもとに、英文の論文を投稿する場合の諸注意を一冊にまとめた。

②「実験化学講座 第5版」全30巻を刊行中で、平成17年度は次の9巻(第6巻 温度、熱、圧力、第9巻 物質の構造I 分光(1)、第10巻 物質の構造II 分光(2)、第14巻 有機化合物の合成II、第16巻 有機化合物の合成IV、第23巻 有機化合物、第26巻 高分子化学、第28巻 ナノテクノロジーの化学、第30巻 化合物の安全性と薬品の管理)を刊行した。

(6) 産学交流部門

産学交流委員会〔委員長：山辺正顕(産総研)〕は本年度2回会議を開催し、下記事項について審議したほか、傘下の4分科会で様々な事業企画を立案し実施した。また、運営会議・理事会から付託された事項(次年度産業界選出役員候補者の推薦・化学技術賞等の受賞候補者推薦など)について検討し、これに協力した。

●シンポジウム分科会〔主査：渡邊英一〕

(1) 春季年会における委員会企画の実施

○産学連携BICSシンポジウム(シリーズ第2回)：『生命化学による次世代技術の創成』

日 時：平成17年3月26日(土) 9：00 - 16：30 参加者数：約90名
場 所：神奈川大学横浜キャンパス

共同主催：日本化学会(産学交流委員会・生命化学研究会)・化学技術戦略推進機構(BICS研究会)・科学技術推進機構

プログラム企画趣旨説明：(化学工学会) 渡邊英一

基調講演：「生命化学と新たな産業創生について」(九大先端研) 浜地格

活動紹介：「BICS活動および第1回シンポジウム」(化学工学会) 渡邊英一

(1) 第1部：学からの提案-生命化学による革新技術創成および応用の可能性提案と大学発ベンチャーへの取り組みなど

①人工生体高分子を用いた金属配列技術の創成(東大院理) 塩谷光彦

②細胞の運命を決める小さなRNAの発見から応用まで(東大院工) 多比

良和誠

③次世代のタンパク質改変技術-非天然型アミノ酸導入技術の開発と応用(北陸先端 大材料科学研) 芳坂貴弘

④新しい生体情報のセンシングおよび利用技術の開発と新しいコンセプトの創製(九大院工) 片山佳樹

⑤CE-MSによる生体成分の網羅的な解析(慶大理工) 曾我朋義

⑥シャペロン工学によるタンパク質の機能・集積制御(東京医歯大生体材料研) 秋吉一成

⑦ファージライブラリー法を用いたインフルエンザ感染阻害の開発(慶大理工) 佐藤智典

(2) 第2部：産界の取り組み、今後の展望

講演『生命化学によるビジネス創成への期待(日経BP) 横山勇生

企業からの話題提供：産業技術化、事業化、産学連携の立場

①DDS用素材の開発とその展開(日本油脂) 山村廣行

②膜型人工肺Platinum Cube NCVCの開発と製品化(大日本インキ化学) 松田智昌

③熱応答磁性ナノ粒子の開発と応用(チッソ) 大西徳幸

(3) 講演奨励賞の選考・表彰

特に産業技術に関係の深い5部門(高分子、材料化学・材料の機能、材料の応用、資源利用化学)で産業に対し、現在または将来にわたり大いに期待される基礎または応用的なアイデア、実験手法などについて優れた研究発表で35歳以下。産業界関係者約80名が研究発表を聴講し採点。申請のあった154件の中から最終的に15名を表彰。受賞者名および講演題名は化工誌58巻第6号に掲載した。

なお、第86春季年会より、これまでの上記5部門に加え、新たにアドバンス・テクノロジー・プログラム(ATP)のC講演およびD講演も講演奨励賞の対象とすることにし、選考基準を下記のように決めた。

『探索研究から製品開発の過程で「化学」に基づく技術がかかわり、それがブレークスルーや特徴ある製品性能を生み出すなど、製品開発に大いに寄与をもたらした優れた技術内容を含むもの。』

(4) 第86春季年会(2006)

下記2件の企画を第86春季年会実行委員会に提案し、採択され、実施予定である。

○産学連携BICSシンポジウム(シリーズ第3回)

『生命化学による次世代技術の創成』ケミカルバイオロジーを支えるケミカルライブラリー：新たな技術革新は医薬開発を変える

○日 時：平成18年3月28日(火) 10：00~17：00

○会 場：日大理工船橋キャンパス(日本化学会第86春季年会S3会場)

○主 催：日本化学会(産学交流委員会・生命化学研究会)・化学技術戦略推進機構(BICS研究会)・科学技術推進機構

○講 演：

1) 基調講演(東大先端研) 菅 裕明

2) ゲノム創薬の展開と展望(東大先端研) 油谷浩幸

3) 2分岐糖鎖ライブラリーの合成と展開(大塚化学) 笹岡三千雄

4) 糖鎖(慶大理工) 佐藤智典

5) コンビナトリアル化学合成の手法と展開(東大院理工) 高橋孝志

6) 新規免疫抑制剤FT120の開発(三菱ウエルファーマ) 城内正嘉

7) ペプチド(東大院生命理工) 三原久和

8) DNA、RNA(東大先端研) 菅 裕明 ほか企業研究者2名予定。

○日本化学会 研究所長フォーラム(第5回)

『研究人材流動化と産業の活性化：ポストク“人財”をいかに活かすか、その現状と課題』

○日 時：平成18年3月27日(月) 13：00~17：00

○会 場：日大理工船橋キャンパス(日本化学会第86春季年会S1会場)

○主 催：日本化学会(将来構想委員会・産学交流委員会)・化学技術戦略推進機構・科学技術推進機構

○講 演

1) 日本の大学における学生、ポストク、教員の流動性における問題点(科学技術振興機構) 北澤宏一

2) 科学技術関係人材養成プランにおけるポストク問題(文科省科学技術・学術政策局基盤政策課) 田中正朗

3) 東大先端研における産官学にまたがる人材流動化促進のための取組みと課題(東大先端研) 澤 昭裕

4) 技術人材の採用、育成とポストクの位置づけ(味の素) 山野井昭夫

5) 独立行政法人(研究開発)におけるポストク問題：バイオ分野での動き(理研) 大熊健司

6) パネル討論：講師ほか。

●技術者育成分科会〔主査：平野 茂夫(富士写真フイルム)〕

(1) 実力養成化学スクール

企業の若手研究者・技術者を対象。受講後テストを行い合格証を発行。将来はPDE協議会の資格認定制度と連動させ、『日本化学会認定化学士』（仮称）の資格取得の基本単位の一つとなることをめざしている。

平成15年度はキラル化学〔大塚幸一郎（京大院工）〕、高分子化学〔中條善樹（京大院工）〕および電気化学〔高村 勉（ハルビン大）〕の3コースを6月に実施、受講者は3コースで156名。平成16年度は、新たに無機材料化学〔北條純一（九大院工）〕、燃料電池〔渡辺政広（山梨大院工）〕、光触媒〔藤嶋 昭（KAST）〕、有機合成化学〔大塚幸一郎（京大院工）〕の4コースを加え7コースで5月～10月にそれぞれ実施した。参加者数は152名で昨年度を下回った。このため、平成17年度はキラル化学、高分子化学、先端電気化学、無機材料化学、有機合成化学の5コースで実施した。参加者数は122名であった。なお、平成17年度より名称は『実力養成化学スクール』と改称した。

上記のこれまでの成果を書籍として刊行することにし、丸善(株)より『実力養成化学スクール』の名称で本年度全6巻を刊行した。

●R & D分科会〔主査：堂合一成（東大院工）〕

(1) 技術開発フォーラム：柳田祥三フォーラム（第4回）「環境基軸化学を拓く“イオン液体”の特性・機能とその応用」

企業の若手研究者・技術者が、異業種・異分野研究者との交流を通して研究課題の進め方、テーマ探索などを自由に意見交換。多岐にわたる広い人脈形成と自己研鑽の場。

○日 時：平成17年11月25日（金）～26日（土） 参加者24名

○会 場：和光純薬(株) 湯河原研修所（静岡県熱海市泉232-8）

○プログラム

- 1) イオン液体ならしめているものは（千葉大院自然科学）西川恵子
- 2) イオン液体は液体か？磁性イオン液体との遭遇（東大院理）濱口宏夫
- 3) イオン液体は生体触媒の新たな反応場となり得るか（九大院工）後藤雅宏
- 4) イオン液体と液晶の組み合わせによる新機能化（東農工大院共生科学）大野弘幸
- 5) イオン液体で何が起り、何ができるか：第1回イオン液体国際会議報告（阪大先端科学イノベーションセ）柳田祥三
- 6) イオン液体のイオン性評価と機能の創り込みの化学（横浜国大院工）渡邊正義
- 7) イオン液体の表面・界面挙動（名大院理）大内幸雄

(2) R & D懇話会

現在会員数は約110名。原則として偶数月の第2金曜日夕刻定例会を開催。ライフサイエンス、エレクトロニクス、機能材料、基盤技術等の分野からトピックを取り上げ第一線研究者に講演をいただき、その後懇話会。今年度は下記のテーマで実施した。

- 1) 電機メーカーにおけるナノテクノロジー：ナノ加工技術—トップダウン手法とボトムアップ手法（東芝）齋藤 聡、平成17年4月15日、参加者18名。
- 2) 三菱化学の技術・経営戦略（三菱化学）今成 真、平成17年6月10日、参加者33名。
- 3) カーボンナノチューブの合成技術の現状と新展開（産総研）湯村守雄、平成17年7月15日、参加者20名。
- 4) 発光ダイオード材料GaNの開発動向（古河機械）碓水 彰、平成17年10月14日、参加者17名。
- 5) ナノインプリント技術の最近の開発動向（兵庫県立大）松井真二、平成17年12月9日、参加者25名。

なお近年、参加者が激減していることから、本懇話会会員に対しアンケート調査を行い、存続か廃止かを検討することになったが、アンケートの結果では廃止に賛成しない回答が多かったため、実施方法を替えて企画してみるようになった。

(3) 「大学の就職担当教員と企業の人事担当者交流会」

平成18年1月13日（金）本会にて開催。大学の就職担当教員として27大学39学部39名が、また、企業の人事採用担当者54社70名が参加し、盛況であった。

●産学交流分科会〔主査：後藤 達乎（高効率酸化触媒技術組合）〕

(1) 産学交流会「化学技術経営の現状と将来」

○日 時：平成17年12月2日（金）14：00～17：00 参加者約40名

○会 場：東京工業大学百年記念館フェライト会議室（東京都目黒区大岡山）

○共 催：日本化学会産学交流委員会・化学技術戦略推進機構

○講 演

開会あいさつ：日本化学会産学交流委員会の活動、いまこれから（日本化学会産学交流委員会副委員長/住友化学）山近 洋

- 1) 日中間のベンチャーの相違と技術経営（ETT 理事長・清華大）紺野

大介

- 2) 日本ゼオンの新事業開発、MOTの観点から（日本ゼオン）山崎正宏
まとめ：閉会あいさつ（日本化学会副会長・三菱化学）今成 真

(2) 『学生会員・正会員／企業人事採用担当者 交流会』

春季年会の場を利用して、学生会員および正会員と企業の人事採用担当者との就職面談会。就職活動と人材採用活動を側面的に支援。平成15年度より開始。

○第3回：平成17年3月26日（土）～28日（月）、神奈川大学横浜キャンパスで開催された第85春季年会展示会・ポスター会場で実施。参加企業17社。

(3) 新規事業：化学と工業誌『企業だより』欄の企画編集

平成18年1月号より化学と工業誌に『企業だより』欄を設けることになり、同誌編集委員会より産学交流委員会に協力要請があり、委員会ではこのための企画WGを設け、1月号～6月号までの企業の執筆分担を決めた。

(7) 環境・安全推進委員会

平成17年度の本推進委員会は、受託事業等の実施や中期計画の2年度として会員への実効性のある活動を重視した事業運営を行った。16年4月の国立大学法人化後も引き続き、広く大学等での環境・安全管理への情報提供を行うため、大学関係者向けの安全スクーリングや第85春季年会での環境・安全シンポジウムを開催した。また、大学安全衛生教育への支援を継続するため、大学低学年向けの基礎的な化学実験の安全ガイドとなる学生用テキストの編集をすすめ、本年3月の刊行を予定している。化学物質に対する正しい理解と公平な考え方を持つ人材育成の場として一昨年より「化学物質のリスクコミュニケーション」について基礎講座を実施している。また、昨年8月に開催された環境基本計画の見直しに関する中央環境審議会総合政策部会と各種団体との意見交換会でGSCの推進や化学物質へ正しい理解の促進などの意見具申を行った。なお、環境・安全の情報発信では、環境・安全ホームページを常時更新し、内容の充実を図るなど、関連事業の企画・推進に努めた。以下に委員会活動の概略をまとめた。

①一般市民・企業関係者対象のシンポジウム・講習会

○事業小委員会企画『日本化学会のリスクコミュニケーション講座』第3回の開催

平成18年1月27～28日、於 日本化学会化学会館ホール、参加者17名。

日本化学会という中立な立場から、化学物質の正しい知識・理解をもつ人材の育成を目的として、おもに企業・大学等でリスクコミュニケーションを初歩から学ぼうとする人を対象に基礎を重視した1日半の教育研修コースである。多様な立場の講師（市民活動・科学報道・リスク評価・コミュニケーション方法・事例）の講義を聴く講座内容で構成している。

②研究会シンポジウムの企画・実施

多様化する環境安全領域の活動を推進するため、本推進委員会と連携した研究会活動を行っている。

○グリーンケミストリー研究会「グリーンケミストリーフォーラム」

第11回 平成17年3月26日、於 神奈川大学（50名）

第12回 平成17年10月15日、於 サンポートホール高松（120名）

第13回 平成18年3月29日、於 日本大学船橋キャンパスにて予定

③環境・安全問題懇話会の開催

官公庁（文部科学省・経済産業省・環境省・厚生労働省・東京都・埼玉県）、業界（日本化学工業協会・日本自動車工業会・日本電機工業会）、報道関係者（朝日新聞社・読売新聞社）、および学識経験者等から、環境・安全問題に関して広く意見を求めるため本年度は下記を主題に開催した。なお、懇話会には藤嶋次期会長が出席した。

○第15回（平成17年10月26日、於 本会会議室、出席者20名）

「化学物質を正しく理解してもらうために」

④調査・研究の推進

○環境人材育成戦略に関する調査研究

経済産業省より、化学工業会を通して受託事業「環境人材育成戦略に関する調査研究」を行った。この環境人材教育の在り方の調査から、より産業界に役立つ実務人材の育成に重点を置いた「環境人材育成協議会（仮称）」設立へ動いている。なお、本会を含め、6学協会は今後の本協議会活動に協力する。

○化学物質・プラント分野における失敗知識の分析とデータ化研究

（独）科学技術振興機構（JST）よりの標記受託事業を行った。本委員会幹事の田村昌三氏を中心として、代表的な失敗事例333件を収集、解析を行い、失敗知識のデータベース（化学）を作成した。本データベースはJSTのHPで公開されている。

○平成18年度大学一年生を対象とした環境用語アンケート

教育小委員会企画の標記アンケート調査について4～5月実施を予定

し、準備をすすめている。前回のアンケートは14年に実施。今回は新しい学習指導要領で入学する学生の環境用語の知識について本会員などの協力を得て、調査を行う予定である。

⑤環境・安全に係わる人材育成活動

○環境安全シンポジウム『この一年でどう変わった大学等の環境・安全管理』

平成16年4月に国立大学法人化し、およそ一年経過したことから、とくに労働安全衛生法に基づく安全衛生管理対策について名大、京大、横国大より事例発表をおこないとともに、労働安全衛生の専門家も含めて、広く議論するため下記シンポジウムを開催した。

平成17年3月28日13時30分～17時00分、於 神奈川大学(第85春季年会) 参加者80名。

なお、第86春季年会において、「環境・安全シンポジウム：大学等の環境・安全管理の充実に向けて―企業等での経験者の人材活用―」を3月29日に開催する予定である。

○大学、研究所等における安全教育・管理のためのスクーリングの実施

昨年度に引き続き大学などにおける安全衛生教育・管理者をおもな対象として安全知識の普及、安全意識の向上、安全の維持を図る目的で、下記スクーリングを実施した。

「大学、研究所等における安全教育・管理のためのスクーリング」

第一日目：「安全教育指導者・管理担当者のためのスクーリング」

第二日目：「大学、研究所等における安全衛生管理」

平成17年8月8-9日、於 日本化学会化学会館ホール 参加者47名

○お茶の水女子大学「化学・生物総合管理の再教育講座」への協力

お茶の水女子大学で開講されている標記の社会人向け講座に本委員会企画の参画の検討を行った。平成18年度前期より、コミュニケーション学特論3として「環境の科学」が開講される。講師は本会編「暮らしと環境科学」と「環境科学 人間と地球の調和をめざして」の執筆者を中心に構成している。

⑥グリーン・サステナブルケミストリー・ネットワークへの対応

平成12年度に(財)化学技術戦略推進機(JCII)構内に「グリーン・サステナブルケミストリーネットワーク(GSCN)」が組織され、本会は主催団体として当初よりGSCN活動に全面協力している。特に、GSCNの企画、情報、「グリーン・サステナブルケミストリー賞」選考や「グリーンケミストリーシンポジウム」などに本委員会が協力している。

⑦環境安全情報の提供と広報・出版事業の推進(会員及び一般市民への広報)

○ホームページによる環境安全関連情報の発信

環境・安全関連情報発信の整備として「環境・安全のページ」を開設している。新着情報を始め、サブページには、「講習会・講演会」、「刊行物」、「組織」、「調査研究」、「リンク」「大学環境安全情報」「化学物質情報」欄等と設け、常時、情報更新している。会員及び一般市民への、より速い情報伝達と本会の事業効率を図るため手段としてのさらなる周知が求められる。

○大学低学年向け実験安全のガイドブックの編集・出版

大学低学年での基礎的な化学実験の安全ガイドとなる学生用テキストの編集小委員会を設置した。平成18年度春の刊行を予定している。

○化学防災指針の作成

防災小委員会が中心となり、製造企業の協力を得て、防災指針No.121『ヒドロキシアミン』を編集中心である。また、『混合危険』の編集を開始する。

○第35回安全工学シンポジウム

日本学術会議人間と工学研究連絡委員会安全工学専門委員会主催の標記シンポジウム(7月7-8日開催：共催・協賛48学協会)は、本会が幹事学会を担当した。発表数：100題、参加者：400名以上あり、盛会であった。

(8)化学技術者教育委員会[委員長 伊藤 卓(横浜国立大学名誉教授)]

(1) JABEE 関連

①学協連の化学技術者教育部会対応窓口として、化学分野審査委員会および化学分野審査員研修会への委員派遣および化学分野 JABEE 委員会事務局を担当した。②日本工学会の PDE 協議会ならびに同運営委員会には委員長が出席し、全体の進め方に関する討議に参加するとともに、受講履歴統一化専門委員会委員としても参画した。③平成18年度に実施される全国大学化学系教育研究会の8人の講師のうち、化学会から講演課題に最適な3人の方の推薦を行った。

(2) 化学士認定制度策定小委員会

①資格種別・要件・基準等について整備・充実、技術士制度、化学会のフェロニ制度および他分野の資格制度等との関連も含め制度の大枠を固めた。②具体的に実行するにあたり、制度の理解・浸透を含め、次年度役員も加えた「化学技術者教育・資格認定委員会」で、ニーズ調査を含め、実施手順

等引き続き検討することになった。

(9) 化学教育協議会

中長期目標「化学教育協議会の進むべき道―目立つ形に、頼られる存在に」のもと、17年度スローガンとして、「アウトカム重視の化学(科学)教育振興戦略」を立て、下記6項目を重点課題として実施した。

①初中等教育の「あるべき姿」の明確化を最重要課題とし、中高一貫の『化学の本』、教科「理科」関連学会協議会(以下 CSERS と略記)からの新しい提言『新しい高校「理科」の枠組み』作りについては具体化すること

②既存活動(とりわけ、地域活動との連携強化、初中等の先生方への活動の場の提供・支援の強化等)のより効果的な企画の検討を実施すること。そのため、ネットワーク作りは継続して推進していくこと

③化学の広がり、楽しさを伝えるリーフレット「次世代を担う若者たちへ」を活用し、活動基盤の強化に向けての会員増・収入増につながる企画を立案・実行していくこと

④予算の有効活用のためにもイベントの成果評価は常に考えておくこと、各支部の歴史と特徴あるイベントについても外部資源の活用を含め、他支部の情報も参考にしながら、より一層の充実を図ること

⑤教員の再教育と養成についての具体的な実施策を検討すること

⑥春季年会における化学教育セッションの活性化と「化学教育発表会」の検討をすること

学校教育委員会：①新しい高校「基礎理科」(一年生必修)の枠組みについての日本化学会案を作成し、CSERSへ提案した。CSERSとして議論した最終案を中央教育審議会に提案した。②第13回化学教育フォーラム『初等中等教育課程における「化学」のあるべき姿』を教育関連の行事がない最終日の2006年3月30日午前に開催することとした。その他、傘下のWGとしては、大学入試問題の検討、諸外国の「化学」教育課程・教員養成制度状況調査を実施し、それらの結果を化教誌に連載した。

普及・交流委員会：①リーフレット「次世代を担う若者たちへ」は好評で5,000部増刷した。②各委員が参加する各種大会・研究会において、化教誌のバックナンバー配布や各種出版物の販売等を実施し会員増強に努めた。③化教誌の埋め草『知っとく情報』は50編を超え、冊子化を検討している。

④夏休み子ども実験ショーでは、「なぜナニクイズショー」の新バージョンを完成させ、披露した。⑤夢化学事業の出前実験教室やPTAからの依頼で近隣の小学校での全学対象の実験教室などを行った。⑥朝日小学生新聞の『わくわく理科タイム』、科学博物館と連携した『子ども居場所作り』も継続した。また、⑦『化学だいきクラブ』運営を化学教育協議会に移管することが決まり、普及・交流委員会傘下の3番目の小委員会「化学だいきクラブ小委員会」を立ち上げた。

化教誌編集委員会：①ヘッドライン企画「持続可能な社会を目指す化学技術-GSC」を取り上げ、sustainableが持つ意味を中心にしてGSCの総論を展開した。これに加え、編集長おすすめ欄として、新シリーズ「身近な材料・商品とGSC-持続可能な社会を目指す化学技術の過去・現在・未来」と題して、各論を1月号から1年間連載することにした。②定番!化学実験小中版は17年2月で完結、抜粋集を作成、一冊500円で販売を開始した。

化学グランプリ・オリンピック委員会：①全国高校化学グランプリ2005の一次選考を7月18日(月)に全国25会場で実施(1,193名が参加)。二次選考は8月20日(土)に東京農工大学で一次選考の上位61名(うち1、2年生9名)を対象にして実施した。②第37回国際化学オリンピック(台北、台湾2005.7.16-25)に4名派遣。銀1、銅3受賞。③文部科学省の後押しも得、2010年度のIChO日本開催が本決まりとなった。

その他、①化学アーカイブズ小委員会：化学史に関連する資料の収集・DB構築を開始した。②CSERSシンポジウム『新しい高校「理科」の枠組みについて』を化学会ホールで開催した。

平成17年度化学教育協議会

議長 伊藤 卓(横浜国立大学名誉教授)
副議長(学校教育委員会委員長) 市村禎二郎(東京工業大学)
副議長(普及交流委員会委員長) 柄山正樹(東京女学館中・高等学校)
副議長(化教誌編集委員会委員長) 下井 守(東京大学)
副議長(化学グランプリ・オリンピック委員会委員長) 本間敬之(早稲田大学)

役員 有賀正裕、伊藤敏幸、太田暉人、川泉文男、玉尾皓平、中村 博、西原 寛、細久治夫、松原静郎、葉袋佳孝、村松 隆、山口武夫、渡辺 正

8. 平成 17 年度支部事業

(1) 北海道支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇談会	参加者数
支部役員幹事会	3			3		67
支部役員懇親会	2				2	44
化学教育協議会	1			1		9
学会賞・学術賞等推薦委員会	1			1		13
支部役員選考委員会	1			1		13
北海道支部奨励賞選考委員会	1			1		6
夏季研究発表会 (支部大会)	1	150 (4)				346
冬季研究発表会	1	103 (2)				226
安全・環境推進事業 (講習会)	1	2	1			40
地区化学教育研究協議会	1	6 (1)				45
地区化学講演会	4	(5)				351
化学系大学への体験入学	1	(2)				93
高校生のための化学 (出前講義)	3	3				240
中学生のための化学実験講座	4	(1)				129
高校理科クラブ支部奨励賞表彰	1			1		
外国人講演会	12	12				541
日本人講演会	4	4				250
共催討論会	4	45 (15)				235
セミナー (共催)	2	31 (26)				211
国際シンポジウム共催	1	(7)				250

(2) 東北支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇談会	参加者数
化学系学協会東北大会	1	390 (特別：4/ 依頼：11)			1	617
環境安全啓発講演会	1	(2)			1	120
東北支部長賞	1					28校
地区講演会						
青森地区	1	(4)			1	81
福島地区	1	(3)		懇談会 1		55
秋田地区	1	(2)				43
山形地区	1	(2)				80
岩手地区	1	(2)				86
会員増強のための講演会 (宮城)	1	(2)				85
講習会						
有機化学コロキウム	1	(7)			1	85
無機・分析化学コロキウム	1	(12)			1	93
物理化学コロキウム	1	(11)			1	120
層間化合物コロキウム	1	(12)			1	80
高分子コロキウム	1	(4)				66
化学普及 (化学教育) 事業						
化学教育研究協議会東北大会	1	21 (特別：1/ 依頼：4)			1	44
化学への招待						
弘前地区 (東北支部第 139 回)	1	(1)				70
八戸地区 (東北支部第 143 回)	1					43
秋田地区 (東北支部第 138 回)	1					21
岩手地区 (東北支部第 136 回)	1	(1)				42
山形地区 (東北支部第 140 回)	1					70
米沢地区 (東北支部第 135 回)	1					32
宮城地区 (東北支部第 137 回)	1					118
いわき地区 (東北支部第 142 回)	1					84
郡山地区 (東北支部第 141 回)	1					42
中学生のための化学実験講座 —訪問実験— (鶴岡)	24					704

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇談会	参加者数
(東北支部第 144 回) 第 28 回教師のための化学教育講座	1					35
全国高校化学グランプリ 2005 第一次専攻	6会場					249

(3) 関東支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇談会	参加者数
幹事会	5				2	168
常任幹事会	2					27
代議員会	1				1	61
各賞推薦委員会	1					12
会員委員会	1					9
事業企画委員会	3					39
支部化学教育協議会関係						
・全体会議	1				1	17
・理科・化学教育懇談会小委員会	1					3
・化学クラブ小委員会	1					5
・事業見直し会合	1					8
電子情報委員会	1					5
就職交流会 WG 会合	2					6
新規事業検討 WG 会合	8					51
講演会「次世代バイオテクノロジー ーとしての糖鎖工学」	1		5			48
講演会「TLO と産学連携が今めざ すもの」	1		5			33
講演会「リチウム電池開発最前線」	1		6			79
講演会「世の役に立つ新しいプロ セス技術、高機能材料」	1		7			48
特別講演会	2		2			224
化学系学生のための企業合同説明 会	1			参加企 業 21 社		133
英語プレゼン塾	1					19
電子メール配信	27					
地域懇談会						
・茨城地区	1		1	ポスター 発表 72 件	1	159
第 16 回研究交流会	1					
学校訪問授業	5					204
・栃木地区						
高校訪問講義・実験	3					139
講演会	3		3			222
・群馬地区						
地域懇談会	1		1	ポスター 発表 52 件	1	124
講演会	1		2			250
理科教育談話会	1		2		1	41
講師派遣	15					717
・山梨地区						
講演会	2		3			211
高校・大学化学系教員懇談会	1					25
学校訪問講義・実験	2					60
・新潟地区						
[新潟地区]						
講演会と交流会	1		1	企業紹介 7 社	1	114
学校訪問実験	5					157
[長岡地区]						
運営委員会・講演会	1					
2005 年支部合同新潟地方大会	1	129 (7)				312
第 6 回長岡技科大・分子サマ ースクール	1					14
低学年啓蒙：化学のおもちゃ箱	1			実 験 5 テーマ		431
長岡工業高等専門学校公開実験	3					139
長岡工業高等専門学校出前実験	9					161
・埼玉地区						
科学教養セミナー	1		1			126
埼玉大学オープンキャンパス	3					1350
埼玉大学工学部 - 高校生・化学	1					25

北陸地区講演会と研究発表会	1	2	ポスター 208 件	1	420	化学への招待 広島：平成 17 年高校・大学化 学教育フォーラム	1	3			20
滋賀地区講演会	1	3		1	44	岡山：夢・化学-21 高校生のため の岡山大学化学系学科 見学会と談話会	1			実験 談話会	37
第 12 回化学安全講習会	1	7			76	山口：夢・化学-21	1			実験	65
研究最前線講演会・交流会	1	4		1	145	鳥根：夢・化学-21	1			実験	120
講習会「研究室で実現できる最新 化学計算」	1	2	実習あり		26	鳥根：化学と遊ぼう	1			実験	51
化学教育サロン	1	4		1	56	香川：夢・化学-21	1			実験	40
大学化学入試問題をめぐる大学～ 高校交流会	1			1	109	香川：化学講演会	1	1		実験	30
第 7 回工業高等専門学校生化学研 究発表会	1		発表 12 件		39	徳島：夢・化学 21-化学への招 待	1			実験	41
第 20 回石川地区中学高校生徒化 学研究発表会	1		発表 26 件		132	高知：化学への招待「身近な色 素で作る色素増感太陽光 電池」	1			実験	15
第 22 回高等学校・中学校生徒化 学研究発表会	1		発表 15 件		97	おもしろワクワク化学の世界	1			演示実験	4219
第 7 回近畿地区 化学教育研究発 表会	1		発表 10 件		45	'05 広島化学展				展示	
化学への招待						出張講義	45			講義	1754
・子と親の楽しいかがく教室（大 阪府立工業高等専門学校）	1		実験 7 テーマ		53	中国四国支部支部長賞	1			表彰	91
・子と親の楽しいかがく教室（大 阪教育大学）	1	1	実験 28 テーマ		128	全国高校化学グランプリ	1			表彰	133
・企業見学・講演会（江崎グリ コ）	1	1	1		45	第 42 回中国四国産学連携化学フ ォーラム	1	6			88
・植物園見学・講演会（大阪市立 大学理学部附属植物園）	1	1	1		44	第 43 回中国四国産学連携化学フ ォーラム	1	6	1		100
高等学校出前講演会						地区基盤特別事業					
・富田林市立伏山台小学校	1	1			64	化学（理科）教育の在り方を考 えるシンポジウム	1	特別（1）			51
・清風南海高等学校	1	1			313	情報ネットワーク推進事業	1			HP 更新	
・石川県立小松高等学校	1	1			180	共催事業					
第 7 回化学グランプリ一次予選会 （大阪）	1				101	・田中秀樹教授（日本化学会学術 賞）・中尾安男教授（日本化学会 教育賞）受賞記念講演会	1	2			
第 7 回化学グランプリ一次予選会 （石川）	1				51	・分析化学会中国四国支部分析化 学講習会	1				115
第 7 回化学グランプリ一次予選会 （富山）	1				45	・生物発光・化学発光研究会	1				53
						・第 10 回ケイ素化学協会シンポ ジウム	1				201
						・第 2 回ナノ・バイオ・インフォ 化学シンポジウム	1	特別（1） 一般 11		表彰	117
						・石油化学講演会	1				77
						・第 19 回グリーンケミストリー 研究会	1				

(6) 中国四国支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇談会	参加者数
役員会						
幹事会	3					119
化学教育協議会	2					30
代議員会	1					20
会長と支部幹事の懇談会	1					43
2005 年日本化学会西日本大会	1	招待 3 ポスター 148 一般 423			1	654
地区化学講演会						
鳥取地区化学講演会	1	3				93
徳島地区化学講演会	1	4		1		61
香川地区化学講演会	1	5				38
国際交流講演会						
Michael M.Haley 教授講演会	1	1				25
Prof.Y-W Kwak 講演会	1	1				24
S.K.Kim 教授講演会	1	1				65
安全・環境セミナー	1	2				51
支部化学教育研究発表会	1	招待 5				64
支部広報事業						
愛媛：夢・化学-21 化学の学校 体験一日体験入学 「化学実験の楽しみ」	1			実験		132
鳥取：夢・化学-21 鳥取大学一 日体験化学実験教室 「実験を通して先端化学 に触れてみよう」	1			実験		36
広島：夢・化学 21 大学見学会・	1			実験		468

(7) 九州支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇談会	参加者数
平成 17 年度幹事会・常任幹事 会・代議員会	3		1	1		60
<講演会・講習会・研究発表会>						
・平成 17 年度第 1 回講演会	1	2			1	90
・第 26 回支部シンポジウム（中 止）	0					
・第 42 回化学関連支部九州合同 大会	1	8 (1)		ポスター 発表 550 件 講演 4 件 ポスター 発表 441 件	1	650
・ 2005 年日本化学会西日本大会	1	3			1	650
・環境安全セミナー	1	3				70
<フォーラム>						
・第 15 回高専フォーラム	1	4		総合討論 会 1 件 ポスター 発表 46 件	1	44
・第 16 回産学交流ユースフォー ラム	1				1	182
<化学普及（化学教育）事業>						
・化学への招待（第 45 回～48 回）	4	3		演示実験 61 件		3,214
・全国高校化学グランプリ 2005	1					400

・第13回九州地区高等学校化学クラブ研究発表会			研究発表 56件	443	・第5回先生のための化学講座	1				16
福岡県					・理科・化学教育懇談会総会	1				15
・サイエンス講座2005	1		実験講座 6件	47	・第6回中学生のための化学実験教室	1				27
・理科・化学教育懇談会総会	1	1		60	鹿児島					
佐賀県					・ミニ化学への招待	1				250
・理科・化学教育懇談会総会	1			15	沖縄					
・第5回理科・化学教育研究発表会	1		口頭発表 13件 ポスター 10件	90	・理科・化学教育懇談会 化学フォーラム	1				51
長崎					<共催事業>					
・理科・化学教育懇談会総会	1			31	第11回物理有機化学九州シンポジウム	1				254
・サイエンスワールド2005	1			90	The International 6th China-Japan Symposium on Calorimetry and Theemal Analysis (CATS-2005)	1	74 (2)	ポスター 66件	1	200
・化学クラブ研究発表大会	1			50	Asian-European Symposium on Metal-Mediated Efficient Organic Synthesis	1	26	ポスター 38件	1	68
熊本					第34回窯業基礎九州懇話会	1	3			40
・第11回化学実験講習会	1			17	KFCセラミックス講演会	1	6			70
・理科・化学教育懇談会総会	1			16	第23回九州コロイドコロキウム	1	5	ポスター 8件		48
・テクノファンタジー2005	1			2,000	第44回工業物理化学講習会	1	4			86
・夢科学探検2005	1			600	第41回熱測定討論会	1	74 (2)			200
・第12回化学実験講習会	1			12	第46回分析化学講習会	1	3	実習20件		77
大分					第12回九州夏期セラミックス研究会	1	2 (1)			40
・小中学校への出前講義(植田東中学校)	1			200	第14回KFCセラミックスセミナー	1		実習		10
・理科・化学教育懇談会総会	1			20	夏休み体験教室	1		体験実験		30
宮崎					「ものづくりと工学教育」シリーズ第1回講演会	1	2		1	70
・第5回高校生のための化学実験教室	1			52						
・第2回高校生のためのマニファクチュアリングコンテスト	1			37						
・第12回高校生のための生命科学に関する講演会	1			177						

9. 平成18年度支部役員

(1) 北海道支部

支部長 魚崎 浩平 (北大院理)	
副支部長 嶋田 志郎 (北大院工)	杉岡 正敏 (室蘭工大)
庶務幹事 村越 敬 (北大院理)	明石 孝也 (北大院工)
会計幹事 野口 秀典 (北大院理)	
環境安全担当 杉岡 正敏 (室蘭工大)	嶋津 克明 (北大院地環)
幹事 小原 寿幸 (函館高専)	伊藤 秀明 (日本製鋼室蘭)
カーブハウスオラフ (千歳科技大)	奥田 弥生 (苫小牧高専)
鈴木 正昭 (産総研北海道セ)	原 正治 (北大院工)
田邊 博義 (室蘭工大)	日夏 幸雄 (北大院理)
鈴木 輝明 (北教大釧路)	上田 渉 (北大触媒セ)
津田 勝幸 (旭川高専)	太田 信廣 (北大電子研)
中村 博 (北大院地環)	近藤 浩文 (道立理科セ)
神 和夫 (道立衛生研)	吉田 孝 (北見工大)
監査 宮浦 憲夫 (北大院工)	多田 旭男 (北見工大)

(2) 東北支部

支部長 宮下 徳治 (東北大多元研)	
副支部長 大野 公一 (東北大院理)	小沢泉太郎 (秋田大工学資源)
幹事長 秋山 公男 (東北大多元研)	
会計 渡辺 明 (東北大多元研)	
会員担当 井上 将行 (東北大院理)	
化学教育協議会議長 村松 隆 (宮城教育大)	
幹事 正田晋一郎 (東北大院工)	中山 亨 (東北大院工)
伊藤 攻 (東北大多元研)	飛田 博実 (東北大院理)
佐々木大和 (松島高)	糠塚いそし (弘前大理工)
小林 正樹 (八戸工大)	浜井 三洋 (秋田大教育文化)
井上 幸彦 (秋田大工学資源)	進藤隆世志 (秋田大工学資源)
八代 仁 (岩手大)	横田 政昌 (岩手大)
楨 雄二 (山形大)	栗山 恭直 (山形大)
金澤 昭彦 (山形大)	菅原 晃 (鶴岡高専)
生田 博将 (福島大共生システム理工)	
鈴鹿 敢 (日大工)	山浦 政則 (いわき明星大科技)

(3) 関東支部

支部長 伊与田正彦 (首都大都市教養)

副支部長 味岡 正伸 (三井化学マテリアル研)

大倉 一郎 (東工大院生命理工)

幹事 浅香 隆 (東海大工)	有賀 克彦 (物質材料研物質研)
池田 幸 (宇都宮大工)	伊藤 滋 (東理大理工)
伊藤 文之 (産総研環境管理技術)	
井村 久則 (茨城大理)	岩橋 横夫 (北里大理)
上田 一義 (横浜国大院工)	梅田 実 (長岡技科大)
岡田 明彦 (住友化学筑波研)	岡野 光俊 (東京工芸大)
小川 順 (昭和電工技術戦略)	小坂田耕太郎 (東工大資源研)
加藤 立久 (城西大院理)	加藤 正直 (長岡高専物質工)
金村 聖志 (首都大都市環境)	川久保 進 (山梨大医工総研)
川西 祐司 (産総研ナノテク)	川村 邦昭 (東レ医薬研)
木越 英夫 (筑波大院数理工)	鯉沼 康美 (日本油脂研究本部)
小嶋 芳行 (日大理工)	
小林 徹 (理研加藤分子物性研)	
小林 秀彦 (埼玉大工)	小林 正美 (筑波大院数理工)
坂本 昌巳 (千葉大院自然)	鳥倉 紀之 (新潟大理)
高井 正樹 (三菱化学科学技術研究セ)	
立間 徹 (東大生産研)	立松 伸 (旭硝子中研)
田中 秀樹 (中央大理工)	田中 康裕 (宇部興産研究開発)
辻 尚志 (味の素アミノ研)	徳山 英利 (東大院薬)
中村 暢文 (東農工大院共生科学)	
西村 淳 (群馬大院工)	
長谷川悦雄 (日本電気基礎・環境研)	
花屋 実 (群馬大工)	火原 彰秀 (東大院工)
古田 寿昭 (東邦大理)	
前川 康成 (原研量子ビーム応用研究)	
松方正彦 (早稲田大院理工)	松本 隆司 (東工大院理工)
薬袋 佳孝 (武蔵大人文)	宮坂 力 (桐蔭横浜大)
山田 徹 (慶應大理工)	山田 哲弘 (千葉大教育)
山中 一郎 (東工大院理工)	
山本 信之 (ライオン物質科学セ)	
米澤 徹 (東大院理)	渡部 英司 (三井化学生産技研)
監査 池田 富樹 (東工大資源研)	渡辺 正 (東大生産研)

(4) 東海支部

支部長 高須 芳雄 (信州大繊維)

副支部長 早川 芳宏 (名大院情報科学)
山田 英介 (愛知工大)
庶務幹事 本吉谷二郎 (信州大繊維)
会計幹事 関 隆広 (名大院工)
常任幹事 上村 大輔 (名大院理) 池田 慎一 (名市大薬)
大澤 善美 (愛知工大) 大島 康裕 (分子研)
角田 範義 (豊橋技科大) 河合 道弘 (東亞合成)
近藤 満 (静岡大) 斎藤 進 (名大院理)
紫牟田正則 (三菱ガス化学)
長沼 健 (愛知教育大理科教育)
長原 滋 (鈴鹿高専) 西川 俊夫 (名大院生命農)
前田 雅喜 (産総研中部センター)
吉田 久美 (名大院情報科学) 北出 幸夫 (岐阜大工)
大谷 肇 (名工大)

幹事 稲毛 正彦 (愛知教育大理科教育)
太田 清久 (三重大工) 太田大次郎 (石原産業)
上垣外正己 (名大院工) 佐藤 謙一 (東レ)
佐藤 昭次 (中部大工) 柴田 哲男 (名工大)
中村 浩 (豊田中研)
西澤かおり (産総研中部センター)
樋上 照男 (信州大) 福田 博行 (名市工研)
村井 利昭 (岐阜大工) 山下 光司 (静岡大工)
監査 北野 利明 (名大院工) 村井 久雄 (静岡大)

(5) 近畿支部

支部長 石井 康敬 (関西大工)
副支部長 柴山 晃一 (積水化学) 柳 日馨 (阪府大院理)
次期支部長 大島幸一郎 (京大院工)
監査 川俣 章 (花王) 神戸 宣明 (阪大院工)
幹事 蓮覚寺聖一 (富山大工) 宮澤 真宏 (富山大理)
山口 孝浩 (金沢大自然科学) 藤波 修平 (金沢大自然科学)
山口 政之 (北陸先端大) 高橋 一朗 (福井大工)
草桶 秀夫 (福井工大) 藤原 学 (龍谷大理工)
小澤 文幸 (京大化研) 柴田 誠一 (京大原子炉)
佐藤 啓文 (京大院工) 大場 正昭 (京大院工)
藤田 晃司 (京大院工) 近藤 輝幸 (京大院工)
津江 広人 (京大院人環) 白川 英二 (京大院理)
安藤 耕司 (京大院理) 楠川 隆博 (京工織大)
佐々木 健 (京工織大) 中野 雅由 (阪大院基礎工)
池田 茂 (阪大太陽エネルギー化学研究セ)
三浦 雅博 (阪大院工) 今中 信人 (阪大院工)
安蘇 芳雄 (阪大産研) 鷹野 優 (阪大蛋白研)
奥村 光隆 (阪大院理) 岡村 高明 (阪大院理)
上田 貴洋 (阪大総合学術博物館)
谷 敬太 (阪教大) 松本 章一 (阪市大院工)
廣津 昌和 (阪市大院理) 小川 昭弥 (阪府大院工)
田中富士雄 (阪府大) 水畑 穰 (神戸大工)
水谷 泰久 (神戸大分子フォトサイエンスセ)
矢澤 哲夫 (兵庫県立大院工)
八尾 浩史 (兵庫県立大院物質理)
菊原 篤 (奈良教育大教育) 三方 裕司 (奈良女子大)
菊池 純一 (奈良先端大) 神田和香子 (和歌山大教育)
橋本 正人 (和歌山大システム工)
小堀 和彦 (立命館大理工) 水谷 義 (同志社大工)
中村 吉伸 (阪工大工) 田中 耕一 (関西大工)
藤原 尚 (近畿大理工) 玉井 尚登 (関西学院大理工)
町田 信也 (甲南大理工) 安田 賢生 (富山高専)
嶋田 豊司 (奈良高専) 蔭山 博之 (産総研)
松川 公洋 (阪市工研) 桜井 芳昭 (阪府産技総研)
中川 佳樹 (カネカ) 小池 正実 (三洋化成)
高山 正己 (塩野義製薬) 大住 忠司 (住友化学)
窪田 均 (田辺製薬) 村井 良行 (ダイセル化学)
杉原 芳博 (武田薬品) 加地 篤 (東洋紡績)
上 真樹 (東レ) 吉井 清二 (日本触媒)
竹内 誠 (アステラス製薬) 鈴木 正明 (松下電器)
小畑 敦生 (三井化学)

化学教育協議会近畿支部議長 有賀 正裕 (阪教大)
化学への招待 小委員長 成相 裕之 (神戸大工)

(6) 中国四国支部

支部長 大寺 純蔵 (岡山理大工)

副支部長 樋高 義昭 (愛媛大) 原田 勝正 (宇部興産宇部研)
支部監査 森 浩司 (大塚化学機能化学品研) 阿部 憲孝 (山口大)
次年度支部長 山中 昭司 (広島大院工)
地区幹事 斎本 博之 (鳥取大工) 岡本 康昭 (鳥根大総理工)
山本 達之 (鳥根大生資科学) 三宅 通博 (岡山大院環境)
西原 康師 (岡山大) 後藤 邦彰 (岡山大院自然科学)
竹崎 誠 (岡山理大工) 岩崎 秀治 (クラレくらしき研)
竹尾 弘 (三井化学石化研究センター)
松原 一博 (旭化成ケミカルズ化学技術研)
竹中 安夫 (三菱レイヨン)
片元 勉 (戸田工業大竹製造センター)
伊藤 雅章 (ダイセル化学工業)
江頭 直義 (県立広島大生命環境)
相田美砂子 (広島大院理) 古賀 信吉 (広島大院教)
青島 均 (山口大) 飯田 伸仁 (トクヤマRC研)
猪木 哲 (三井化学生産技術研)
井口 眞 (山口東理大) 亀澤 光博 (東ソー南陽研)
喜多 英敏 (山口大工) 敷田 庄司 (宇部興産宇部研)
今井 昭二 (徳島大総合) 松井 弘 (徳島大工)
城井 敬史 (大塚化学機能材料研)
武田 清 (鳴門教育大学学校教育)
高木由美子 (香川大教育)
岩崎 賢一 (香川県産業技術センター食品研)
田中 慎 (住友化学基礎化学品研)
斎藤 安彦 (帝人ファイバー技術開発部)
宇野 英満 (愛媛大総研支援センター)
御崎 洋二 (愛媛大工) 市川 善康 (高知大)

支部化学教育協議会委員長 今倉 康宏 (鳴門教育大学学校教育)
次年度支部化学教育協議会委員長 上村 明男 (山口大工)
事務局長 塩野 毅 (広島大院工)
会計幹事 水田 勉 (広島大院理)
庶務幹事 早川慎二郎 (広島大院工) 山崎 勝義 (広島大院理)
小島 聡志 (広島大院理) 伊藤 隆夫 (広島大総合)

(7) 九州支部

支部長 石黒 慎一 (九大院理)
副支部長 佐藤 栄一 (昭和電工)
庶務幹事 榎本 尚也 (九大院工)
会計幹事 桑野 良一 (九大院理)
化教協議長 古川 睦久 (長崎大院生産)
幹事 竹内 玄樹 (新日鐵化学) 石川 誠 (三菱化学)
岩佐 光芳 (電気化学工業) 逆井 一也 (三井化学)
荒武裕一郎 (住友化学) 富田 宗利 (日本合成化学工業)
佐々木俊樹 (チッソ) 伊吹 一郎 (旭化成ケミカルズ)
西 敏郎 (三菱重工業) 清賀 和法 (小倉合成工業)
中條 哲夫 (昭和電工) 水原 芳一 (正晃)
今泉 幸男 (九州電力) 荒木 孝司 (九工大工)
原田 雅章 (福岡教育大) 大熊健太郎 (福岡大)
馬越 幹男 (久留米高専) 濱田 英介 (都城高専)
井上 耕三 (産総研) 中島 謙一 (佐賀大理工)
石原 淳 (長崎大院医歯薬総合)
豊田 昌宏 (大分大工)
伊原 博隆 (熊本大工) 藤本 齊 (熊本大)
後藤 浩一 (崇城大生物生命) 新村 孝善 (鹿児島県工技セ)
青柳 隆夫 (鹿児島大院理工) 酒井 剛 (宮崎大工)
宮城 雄清 (琉球大) 藤津 博 (九産大工)
監査 谷口 功 (熊本大工) 谷内 正 (チッソ)

10. 平成 17 年度部会事業

(1) コロイドおよび界面化学部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇談会	参加者数
役員会	3				
顧問会	1				
監査会	0				
財務委員会	0				
ニュースレター編集委員会	2				
企業委員会	1		技術者フォーラム委員会含む		
会員増強委員会	0				
21世紀WG	1				
奨励賞選考委員会	1				
Lectureship Award 選考委員会	1				
討論会実行委員会	2				
討論会プログラム編成会	1				
事業企画委員会	5				
ニュースレター発行	4		30巻2号～31巻1号		
第21回現代コロイド・界面化学基礎講座	1	16	平成17年5月11日(水)～13日(金)		99
第9回コロイド・界面技術者フォーラム	1	6	平成17年7月21日(木)～22日(金)		27
第2回コロイド・界面新領域創造講座	1	6	平成17年11月18日(金)		42
第23回関西界面科学セミナー	1				42
第58回コロイドおよび界面化学討論会	1	441	平成17年9月8日(木)～10日(土)	207	633
第10回関西コロイド・界面実践講座	1				46
第23回コロイド・界面技術シンポジウム	1	11	平成18年1月19日(木)～20日(金)		73

(2) 情報化学部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇談会	参加者数
総会	1				
役員会	2				
CICSJ Bulletin 編集委員会	3				
CICSJ Bulletin 発行	5		23巻2号～23巻5号		
電子ジャーナル編集委員会	0				
電子ジャーナル (J.Comp.Aided.Chem) 刊行	随時				
JCAC 論文賞 表彰	1		11月17日		
第28回情報化学討論会	1	44	基調講演1件、特別講演1件、 一般講演12件、ポスター30件 44報掲載 (J-stage)	25	68
同 討論会要旨集電子化	1				
講習会「第4回情報化学入門講座」	1	4			29

(3) 生体機能関連化学部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇談会	参加者数
役員会	2				
第20回生体機能関連化学シンポジウム	1	211	口頭発表81件、ポスター129件		302
第20回生体機能関連化学シンポジウム若手フォーラム	1	36	依頼講演4件、ポスター32件		56
サマースタール	1	7	8月26日～27日		79
生体機能関連化学部会講習会					
ニュースレターの発行	4		20巻1号～4号		

(4) バイオテクノロジー部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇談会	参加者数
役員会	1				
Pacificchem2005 シンポジウム参加	1				
ニュースレターの発行	2		9巻1号		

(5) 有機結晶部会

事業名	回数	講演件数	その他	懇談会	参加者数
役員会	2				
総会	1				
第14回有機結晶シンポジウム	1	62	招待講演4件、口頭発表23件、 ポスター35件		
ニュースレターの発行	2		16巻・17巻		

11. 平成 18 年度部会役員

(1) コロイドおよび界面化学部会

部会長 阿部 正彦 (東京理科大)

副部会長 坂本 一民 (資生堂)

幹事 芳賀 正明 (中央大)

栗原 和枝 (東北大)

尾関寿美男 (信州大)

白井 汪芳 (信州大)

有賀 克彦 (物質研)

岡畑 恵雄 (東工大)

坂本 宗寛 (三菱化学)

田村 隆光 (ライオン)

内藤 昇 (コーセー)

野田 章 (資生堂)

牧野 公子 (東理大)

川島 徳道 (桐蔭横浜大)

和田 雄二 (大阪大)

地区幹事 下村 政嗣 (北大)

関 隆広 (名古屋大)

井上 亨 (福岡大)

監査 金子 克美 (千葉大)

鈴木 敏幸 (花王)

岡本 亨 (資生堂)

小原 康弘 (ポーラ)

辻井 薫 (北大)

荒殿 誠 (九州大)

岩橋 横夫 (北里大)

加藤 直 (首都大)

北本 大 (産総研)

戸嶋 直樹 (山口東理大)

長井 勝利 (山形大)

日高 久夫 (明星大)

松本 睦良 (東理大)

湯浅 真 (東理大)

米澤 徹 (東大)

森 誠之 (岩手大学)

石川 達雄 (大阪教育大)

加藤 貞二 (宇都宮大)

(2) 情報化学部会

部会長 船津 公人 (東大)

副部会長 中山 伸一 (筑波大)

幹事 堀 憲次 (山口大)

大和田智彦 (東大)

河合 隆利 (エーザイ)

重光 保博 (長崎工業技術セ)

後藤 仁志 (豊橋技科大)

藤井 宏行 (三菱化学)

岡村 睦雄 (新潟大学)

監査 高田 章

高畠 哲彦 (住友化学)

内丸 忠文 (産総研)

金谷 重彦 (奈良先端大)

佐藤 寛子 (国立情報研)

高木 達也 (大阪大)

中馬 寛 (徳島大)

藤原 巖 (大日本製薬)

梶 正憲 (JST)

細矢 治夫 (お茶の水大)

(3) 生体機能関連化学部会

部会長 青山 安宏 (京大)

副部会長 岡畑 恵雄 (東工大)

杉本直己 (甲南大)

幹事 西村伸一郎 (北大)

栗原 和枝 (東北大)

川本 哲治 (武田薬品)

増田 秀樹 (名古屋工大)

和田 健彦 (大阪大)

青野 重利 (岡崎統合バイオ)

杉山 弘 (京大)

鍋島 達也 (筑波大)

民秋 均 (立命館大)

島本 啓子 (サントリー)

監査 長野 哲雄 (東大)

渡辺 芳人 (名古屋大)

依馬 正 (岡山大)

成田 吉徳 (九州大)

浜地 格 (京大)

三原 久和 (東工大)

高木 昌宏 (北陸先端大)

塩谷 光彦 (東大)

片山 佳樹 (九州大)

深瀬 浩一 (大阪大)

浦野 泰照 (東大)

館 祥光 (大阪市立大)

(4) バイオテクノロジー部会

部会長 松永 是 (東農大)

副部会長 遠藤弥重太 (愛媛大)

幹事 太田 博道 (慶應大)

杉本 直己 (甲南大)

民谷 栄一 (北陸先端大)

西野 徳三 (東北大)

福住 俊一 (大阪大)

監査 渡辺 公綱 (産総研)

顧問 掘越 弘毅 (東洋大)

小林 猛 (中部大)

今中 忠行 (京大)

下坂 皓洋 (イーピーエス)

高木 昌宏 (北陸先端大)

中村 聡 (東工大)

浜地 格 (京大)

大倉 一郎 (東工大)

相澤 益男 (東工大)

田中 渥夫 (中部大)

(5) 有機結晶部会

部会長 小倉 克之 (千葉大)

副部会長 黒田 玲子 (東大)

幹事 小島 秀子 (愛媛大)

菅原 正 (東大)

山下 敬郎 (東工大)

監査 大橋 裕二 (高輝度光科学研究セ)

中西 八郎 (東北大)

佐藤 直樹 (京大)

坂本 昌巳 (千葉大)

宮田 幹二 (大阪大)